

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	日本植物バイオテクノロジー学会
※	日本糖質学会
※	日本植物病理学会
※	日本解剖学会
※	日本寄生虫学会
※	日本生理学会
※	日本衛生学会
※	RNA学会
※	人工知能学会, 実験動物学会
※	日本神経化学会, 日本神経科学学会, 日本解剖学会
※	日本蛋白質科学会, 日本薬学会, 酵素工学研究会, 日本バイオイメージング学会, 環境バイオテクノロジー学会
※	エピジェネティクス研究会
※	日本小児科学会, 日本血液学会, 日本小児精神神経学会, 日本小児血液・がん学会
※	日本細菌学会 日本バイオフィルム学会
※	日本病理学会
※	日本薬学会
※	日本薬学会
※	日本薬理学会
※	日本生理学会
※	RNA
※	日本動物学会
※	日本筋学会
※	日本ゲノム微生物学会
※	日本細菌学会, 日本RNA学会, 日本ゲノム微生物学会
※	日本バイオインフォマティクス学会 情報処理学会
※	日本薬学会
※	日本循環器学会, 日本心不全学会, 循環制御医学会
※	日本解剖学会, 日本循環器学会, 日本小児循環器学会, 日本先天異常学会, 日本小児科学会
※	日本動物学会, 日本農薬学会
※	日本薬理学会, 日本神経化学会
※	日本進化学会, 日本バイオインフォマティクス学会, 日本人類学会
※	日本循環器学会・日本高血圧学会・欧州心臓病学会
※	日本獣医学会, 日本ウイルス学会
※	日本内分泌学会 日本産科婦人科学会
※	日本植物バイオテクノロジー学会
※	日本乳酸菌学会, 食品免疫学会
※	American Society for Cell biology
※	日本生物工学会
※	日本筋学会
※	日本エピジェネティクス研究会
※	日本ゲノム編集学会
※	日本実験動物学会, 日本ゲノム編集学会
※	ASCB
※	日本動物学会
※	日本栄養・食糧学会, 日本基礎老化学会, 日本ビタミン学会, 日本抗加齢医学会
※	日本育種学会, 日本植物学会
※	日本解剖学会
※	酵母遺伝学フォーラム
※	日本RNA学会
※	数理生物学会・神経回路学会
※	日本遺伝子細胞治療学会
※	日本ショウジョウバエ研究会
※	日本整形外科学会
※	日本栄養・食糧学会, 日本細菌学会
※	日本生理学会 日本基礎老化学会
※	日本動物実験学会, 日本ゲノム編集学会
※	日本生理学会, 日本薬理学会
※	日本脂質生化学会
※	日本化学会, 日本薬学会, 日本電気化学会
※	日本電気泳動学会
※	日本物理学会, 米国生物物理学会
※	日本蛋白質科学会, CBI学会
※	日本時間生物学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本内科学会, 日本再生医療学会
※	エピジェネティクス研究会
※	日本育種学会, 日本ゲノム編集学会
※	日本生物工学会

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	日本人類遺伝学会 日本研究皮膚科学会
※	日本薬学会
※	日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会
※	日本法医学会日本DNA多型学会
※	日本RNA学会
※	日本微生物生態学会
※	日本薬理学会
※	日本動物学会
※	日本RNA学会
※	日本病理学会、日本臨床細胞学会、日本臨床衛生検査技師会、日本婦人科腫瘍学会、日本産婦人科学会、日本婦人科がん検診学会、日本大腸肛門学会、日本肝臓学会、日本獣医がん学会、日本組織培養学会、日本家族性腫瘍学会、? ワンヘルスサイエンス学会、
※	日本RNA学会、日本進化学会、AAAS、RNA Society、American Society for Microbiology
※	蛋白質科学会
※	日本内分泌学会日本再生医療学会米国内分泌学会
※	JAMS 酵母遺伝学フォーラム
※	日本エピジェネティクス研究会
※	日本薬学会
※	日本微生物生態学会、日本光合成学会
※	日本エピジェネティクス研究会
※	日本宇宙生物科学会
※	日本解剖学会
※	日本バイオインフォマティクス学会、日本畜産学会
※	日本ミトコンドリア学会
※	日本繁殖生物学会日本受精着床学会
※	日本薬理学会
※	日本エピジェネティクス研究会
※	日本RNA学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本遺伝学会、日本RNA学会
※	日本進化学会、日本生態学会、応用動物昆虫学会
※	日本植物学会、酵母遺伝学フォーラム、酵母細胞研究会、American Society for Biochemistry and Molecular Biology
※	日本寄生虫学会

質問5-2. シンポジウムについて <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者番号	テーマが偏っている 記述
※	生物物理学会との共催については非常に高く評価できるが、医学生物と物理をつなぐ分野である化学に対応する生化学会が共催でない点について、違和感があります。
※	神経科学とケミカルバイオロジーが少ない。
※	ワークショップに数を裂き過ぎている。より多くのシンポジウムを開催できるようにするべきだと思います。(もしシンポジウムとワークショップでやりたいことを区別するのであれば)
※	ゲノム科学方面がほとんど全くない
※	今回のみというわけではなく、毎年その年のトレンドの特色があると思います。それはそれで各年度の特色とみれば問題はないかと思いました。タイトルが奇抜で興味深い一方、例えば、RNA、転写、翻訳等の分野のセッションが、バラバラにありたりして、探すのに苦労した感があります。
※	重複が目立った。
※	DNA 複製と修復がない
※	シンポジウムとワークショップの違いが不明、差別化すべきと思う
※	適切であったと思いますが、自由記載のために2の選択肢もチェックしました。会員構成に鑑みて会長色は発揮なさって良いのではないかと思います。参加してみて、内容的に適切に思われないシンポジウムもありました。
※	テーマが偏っているかどうかは別として研究が多様化している現状では拘らなくてもよいと思う。発生や分化、AI関連のテーマがもっとあっても良かった。
※	シンポやワークショップの演題から、内容が分かりずらかった。
※	バイオインフォマティクス、データサイエンス、in silico解析などのセッションがなかった or 少なかった。
※	微生物学に関するテーマが少なかったように感じます。
※	海外の一線で活躍する研究者をもっと増やして欲しい。
※	あんまり面白いテーマがなかったり、オーガナイザーが果たしてその話題に適任なのか不明なもの。あるいは研究班の半会議のオープンバージョンなども結構見られた。ワークショップに関しても同様に思いました。
※	オーガナイザーが偏っている(同じ人が連続している)
※	偏りがあるのは感じましたが、セッションの数自体が少ないのである程度は仕方がないかと思います。ただ、個人的には興味を持てるテーマは少なかったです。
※	微生物関連がもう少しあると良い
※	多すぎ

質問5-10. シンポジウムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	運営上、仕方がないかとは思いますが、オンラインからの質問は取り上げられにくい傾向があると感じました。
※	日本語セッションが少なかった。分野外で英語オンリーは少しきつかった
※	オンデマンドも併用して、ライブでは重なっていたセッションも試聴できるようにした方がいいと思います。
※	テーマは核オーガナイザーの工夫で新しい切り口が示されているものが多かったと思う。
※	質疑応答に関し、どうしてもオンサイト参加者が優先になってしまいますので、座長の工夫がいるように感じます(オンサイトの参加費が高いなど、それならば差をつけるべきかもしれません)。
※	英語の字幕表示は、聴覚障害のある方には有益と思いますが、図と字幕を同時に見ることは難しいので、あまり意味があるようには思えませんでした。
※	ワークショップ、シンポジウムともに、期間が短くてもアーカイブ視聴できるようにしてほしい
※	新規の分野を選ぶなど、ワークショップの選定は公平に行ってほしい
※	時間が押していて質疑が不十分であるプログラムが多いように感じた。
※	海外からの参加者が多いのに日本語発表が多いこと、スライドも日本語作成が多いことには驚いた
※	並列会場数を絞って、1コマあたりの参加者数を増やす、質疑応答の時間を長めに設定すると良いと感じた。
※	シンポジウムとワークショップの違いが不明、差別化すべきと思う
※	新しい情報を効率よく得ることが学会の大きな役割です。それを考えると、離れた分野での情報収集の場合、英語だと不慣れた単語で詰まるので、少なくとも日本人の発表は英語じゃないほうが助かる。
※	席の配置に対してマイクの位置がもっとあるとよかった。アクセスが遠いため質疑に行くのに手間がかかる場面があった。
※	スピーカーは発表者に聞こえる方向にひとつ欲しい。今回の発表者の前にスピーカーがあったため質問がはっきり聞こえてなかった。
※	シンポジウムには参加していない
※	オンサイトで海外PIを多く招聘し、日本の学生が海外でポストドクポジションを得るきっかけが増えるの良いと思います。
※	別のところにも書きましたが、分野外の進歩を勉強できる機会として他の学会とは一線を画す学会だと思います。それゆえに、日本語でじっくりときけるシンポジウムを切に望みます。
※	シンポジウム会場は(私は結構あちこちいきましたが)いつもスカスカでした。
※	正確に変換されないの、ライブキャプションは必要ない
※	オンラインでの配信のおかげで、体調などの面でせっかく現地に入ってもホテルでオンラインで聴きたい需要にも対応出来ていたと思う。本当に素晴らしいシステムだった。一方で、参加者の質問やコメントがtwitterのように、画面の横に流れていくようなシステムもあつたら、より面白くなるかと思う。
※	時間の都合で、ピッチとポスターセッションしか参加できませんでした。
※	他の学会に比べて、質疑応答が活発で良い。医学系学会が「専門〇〇」のスタンプリヤリーと化してしまっており、発表もノルマ消化なので、とても新鮮だった。
※	今回の年会でのシンポジウムテーマが偏っているとの声があったとしても、今回が生物物理学会との合同年会であったことを考慮する必要がある。年会ごとに、年会長の方針/重点が異なることはあって当然だと思う。危惧すべきは、その年会ごとの特徴がなくなり、マンネリ化することだと思う。
※	不参加だったため回答できない
※	シンポジウムタイトルと実際の演題内容に乖離があるようにもった。
※	ハイブリッドは現地以外からでも参加できるので良かった

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ワークショップとシンポジウムとの違いを出そうとした(ワークショップはディスカッションメイン)のは良かったが、その連絡が遅すぎた。公募時から示すべきだった。そして、ディスカッションメインにするなら、オンサイトでないと難しいと思うので、来年度以降も今回のようなワークショップ形式を続けようとするなら、しっかり検討しないと難しいと思う。
※	科学・研究は、性別に関係なく公平に評価されるべきものであるため、性別のくくりを入れるべきではないと考える。
※	テーマの偏りを感じた。
※	ワークショップは、一人当たりの発表時間と質疑の時間が大変短く、発表者の業績にはなりますが、聴衆としてはポスターの方が質問しやすかったです。また、1つの演題に対してサイエンスピッチ、ポスター、ワークショップの3つとも発表は、多いように思います。
※	ハイブリッド形式だと、同時に何会場でも重ねても大丈夫なので、選択肢がたくさんあったほうがありがたい。オンラインで何ぞと連続するものを企画してほしい
※	現地参加できない日はオンラインで聴講できたのでよかった。展示会場でのセッションは、他所からの音が気になった。
※	会場の様子(質問者)も質疑の際に見られたら、更によかったかなと思います。
※	オンデマンドも併用して、ライブでは重なっていたセッションも試聴できるようにした方がいいと思います。
※	女性講演者を3割に上げる事は分野によっては大変な事もあるが経過処置として当面は受け入れるべきだと思う。
※	面白い言い方をしよう、目立つ言い方をしよう、という姿勢は基本的には好ましいと思うが、分子生物学会ではやや行き過ぎの面もあるのかなと感じている。科学的な価値、生データの重要性、新しい仮説やモデルや技術に対する慎重な姿勢、などを軽視して、「言ったもの勝ち」「ウケればよい(またはウケなければいけない)」という文化に偏ってきているとしたらワークショップ企画公募で「指定演者のうち少なくとも30%程度は女性講演者とする」ということは知らなかった。オーガナイザーが会場でオーディエンスに言うべき。
※	ワークショップで、企画した研究分野とは関係ない女性研究者キャリアの討論がありました。趣旨を否定するものではありませんが、研究のワークショップでは、研究に集中し、女性研究者のキャリアセミナーは、独立したワークショップとして企画いただければ、と思いました。
※	激論コロッセオと謳い、ワークショップでは通常の前頭発表ではなく議論を中心にしてほしいと運営より案内があった。しかし一般前頭発表を廃止しておきながら、ワークショップを前頭発表とは別の立ち位置に置くという方針には賛同しかねる。ワークショップに議論を求めると、単に前頭発表する場を設けても良かった。サイエンスピッチがそれに変わるのかもしれないが、会場がうるさく、雑音の多いポスター会場での発表は非常に居心地の悪い時間だった。
※	質疑応答に関し、どうしてもオンサイト参加者が優先になってしまいますので、座長の工夫がいるように感じます(オンサイトの参加費が高いなど、それならば差をつけるべきかもしれません)。女性演者の数は、30%の目標数字をもっとあげるべきかと思えます。ワークショップの会場が広い展示場内に設けられていて、移動距離が長い場合があり少々億劫に感じました。
※	オーガナイザーとして、ワークショップ採択後に「激論」に関する細かい指示が事務局からあったのは、非常に困惑した。やはりワークショップ前から事前に伝えて欲しかった。
※	日をまたいでテーマが重なっているセッションがあり、参加への選別に苦労した
※	ワークショップでやりたいことを先にオーガナイザーに周知すべきだった。それによって演者は変わってくる(直近で著名な業績が無くても、その分野の動向をまとめてくれる人を入れたりとか)。
※	自分が参加したワークショップが同じ時間に重なってしまう事象があまりにも多すぎる。もう少し、違うテーマを同じ時間帯にするなど工夫してほしい。
※	いくつかの会場は部屋ではなく、ポスター会場に臨時に設営された特設会場であったため、ポスターからの移動が楽だった。また天井がないためか、換気がよく、感染対策という点からも良かったように思う。椅子の座り心地がやや悪かったが、十分に議論は楽しめた。
※	ワークショップ、シンポジウムともに、期間が短くてもアーカイブ視聴できるようにしてほしい
※	外国からの参加者もいるので英語での発表を推奨した方が良いのでは。ただし、英語での質疑応答が難しいのは理解できるので、オーガナイザーが英語での質疑応答で難しい部分は介在をもっとするべきだと思います。
※	若手研究者のセッションが増え、ワークショップが活気付いていた。女性率についても改善が見られた。
※	30%程度の条件を満たすために1人の女性が複数回発表することになったという話も聞くだけでは発表する女性の人数を増やすことには繋がっておらず、意味がないのでは？女性を最低何人入れるというのはいいと思うが、現状女性研究者は全体の30%も居ないのだから、目標設定に無理があると思う複数演題の登録をやめて、女性の最低割合をせめて20%程度2時間を超えるワークショップ、シンポジウムでは5-10分程度の休憩をもうけてほしい
※	とにかく会場がひどい。ポスター会場の中に間仕切りだけで作ったブースで、外の音は入るし中の音は漏れるし寒いしで、環境としてこれまでの分子生物学会で最悪だった。しかも、セッションが終わっていないのにすぐ後ろの壁の向こうから生演奏の音楽が聞こえてくる始末。大会長は「議論しろ」と言っていたのに、その議論がアカデミックな内容と直接関係ない音楽によって妨害されるというのはどういうプログラム設計なのか、神経を疑うレベル。生演奏という発想自体は否定しないが、せめてワークショップの時間が終わって十分な時間を空けてから、セッションの邪魔にならない範囲でやっていただき
※	ただし、同じ分野のワークショップが同じ時間帯に重なっており、他の時間帯に分配してくれれば良いのにと感じました。
※	並列会場数を絞って、1コマあたりの時間を短めにして、参加者数を増やす、質疑応答の時間を長めに設定すると良いと感じ
※	シンポジウムとワークショップの違いが不明、差別化すべきと思う
※	いくつかの会場では、薄い仕切りがあるだけだったため、会場外の音が筒抜けで非常にうるさく、集中出来なかった。また、まだワークショップの最中にも関わらず、会場近くで楽器の演奏が始まり、演者や質問者の声がほとんど聞こえない事態になった。今後は楽器の演奏等の出し物やポスター発表は別の部屋で行ってほしい。
※	ワークショップの応募数と採択数が知りたい。採択の基準は何か？
※	研究費と紐づいたようなワークショップは適切ではない
※	閉会式後のセッションは、参加者が少なくもったいなかった。また、最後の時間のセッションも参加者が少なくもったいなかった。さらに、プレナリートークは、みんなが参加できるような、参加し易い時間帯や場所で行う工夫をして欲しい。セッション会場がポスター会場内にあるのは、移動の面で案外よかった。メッセ内となりの企画場所が空いていたので、全てのセッションがポスター会場と並列の場所で行うのも良いのではないかと感じた。
※	事前に通達されたワークショップの開催形態(運営の先生方の要望)が参加者に周知されておらず、議論を引き出すために行なった試みが参加者に伝わったのか不安があります。ワークショップの定義や開催形態などについて、学会のスタンスを公式に示していただけるとありがたかったです。

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ワークショップが延長した際、すぐそばでバイオリンのミニコンサートがはじまった。そもそもコンサート自体の必要性を感じないし、延長した際に学会の本分を妨げることに、全く配慮が欠けていた。ミニコンサート開催の経費も無駄遣い
※	おそらく女性30%は多様性を考慮するということであろうが、様々な指標(例えば第1世代など)がある中で性的のみがこのように扱われることに疑問を感じる。一方で、ではどうすればよいのかという答えもないため、理解は十分にできる。
※	・女性講演者率の趣旨と意義は十分理解するものの、これから毎年これを続けた場合、同じ女性演者が毎年同じトークを延々繰り返してマンネリ化することになるのではないかと懸念がわきます。海外演者をより多く招いたり、学生のトークを奨励するなど、他のアイデアを組み合わせる必要があるかと思えます。・オンラインからの質問はほとんどありませんでした。オンライン参加者にとって質問しやすい環境であったのかは検証する必要があるかもしれません。
※	バイオインフォマティクス, データサイエンス, in silico解析などのセッションがなかった or 少なかった。
※	男女差別はするべきではないと思う。
※	ワークショップタイトルの中には、個人的には奇を衒った感じのものも散見され、発表内容を如実に表てほしかった
※	研究不正問題についてはもう放置ですか？
※	女性の数が増えるのはよいことですが、あまりにも頼り無い女性が座長になっていたのも、もりあがらないセッションが多かったです。聴衆が可哀想でした。
※	微生物学に関するテーマが少なかったように感じます。
※	女性演者を30%にするために講座の女子学生を出して発表させている所が多かった。それでいて貴学会は40%を女性演者をしていすというのとはなんだか姑息で残念である。
※	一般に演者は男性、女性で選ぶものではなく研究内容で選ぶべきものと思う。著しく選択の幅を減らすことになると思う
※	仲良しの研究者同士で狭い“流行りの”研究内容でワークショップが組まれている印象を受けた。免疫学会のようにもっと幅広いカテゴリーでワークショップ枠を設けて、マイナーだけれども質は良く未来の日本の科学に繋がるような演題を口頭発表に選ぶべきである。それには評価する側の目を養う必要もあるので、日本の科学界全体の実力の向上に繋がると思われる。女性研究者の支援は社会の流れから見ると一定の理解はできるが、日本の科学の未来を考えた場合には純粋に質の良いサイエンスを選抜するべきである。
※	正確に変換されないので、ライブキャプションは必要ない
※	英語の発表を増やすべき
※	オンラインでの配信のおかげで、体調などの面でせっかく現地に入ってもホテルでオンラインで聴きたい需要にも対応出来ていたと思う。本当に素晴らしいシステムだった。一方で、参加者の質問やコメントがtwitterのように、画面の横に流れていくようなシステムもあったら、より面白くなるかと思う。
※	時間の都合で、ピッチとポスターセッションしか参加できませんでした。
※	通いだったため、夜の18時以降のセッションがほぼ聞けなかったのは残念。
※	一人当たりの発表時間が短く感じた。
※	女性の発表、学会への参画はもっと促した方が良いと思います。
※	女性の演者集めが大変なので、女性演者率30%程度を維持するのであれば、一人複数演題登録可能とすべきと思いま
※	ワークショップのオーガナイザー/座長に立候補する以上は、ネットワークトラブルなど不可的な場合以外は、ハイブリッド形式での質疑をさばく能力や事前の練習が当然求められる。女性演者3割のルールは、この比率が定着するまで継続すべきだと思う。調査して頂きたいことは、このルールを設けた結果、女性の(教員ではなく)大学院生の発表がどれくらいの比率を占めたかである。若手重視だけでは、女性の発表者は、若手 PI、人気付き教員、そしてポスドクで占められることが
※	今回、主催者側の計らいでワークショップの本来の趣旨に立ち返って議論する時間を多めに設けていたのがよかった。特に(3AW-11)分子振動イメージングの最前線では、パネルディスカッションの時間を設置しており、研究の背景や課題についてより詳細な議論を聞くことができた。双方向性があり、参加して有意義なワークショップであった。
※	ワークショップの数は多すぎだと思います。似たようなテーマが同じ時間に開催されることもあり、聞きたい演題を絞り込んで会場を移動したりしましたが、全てをカバーすることは不可能で消化不良感が残りました。似たようなテーマのワークショップは企画段階で融合を促してもいいのではないのでしょうか。
※	・シンポジウムとワークショップの区別は必ずしも明確ではないので、すべてシンポジウムとし、運営委員会企画なのか公募によるものなのかわかるようになっていけばよいのではないかと。・指定演者30%女性の方針はぜひ今後も継続してほしい。各大学・機関で女性教員採用促進が進んできたが、ビジブルな女性が少ないのも事実である。年会発表で将来のPI候補である女性・若手が多くの人に知られる機会が増えることは、よい候補を探している採用側にとっても、雇用される側のトレーニングとしても望ましいことである。
※	ワークショップの発表者として、オンラインからの質問がほとんどなかったのも、やはり難しいのではないかと感じました。他の会場での質問についてはわかりませんが、統計があれば公表してほしいです。会場が多すぎて、聞けない演題数が多すぎるように感じた。例えば何分の一のセッションは聞けるようにという指標があって、同時演題数を考えてほしい。例
※	女性の比率に関してですが、実際は守られてないセッションがあり、とても残念に感じました。応募条件を守ることを、積極的に進めていった方が良くと思います。
※	不参加だったため回答できない
※	ハイブリッドは現地以外からでも参加できるので良かった
※	女性枠はこれまで女性研究者の数を散々絞ってきたのに数をそろえるのは実際には難しいこともあると思う。しかし挑戦しないと未来はないと思う。
※	適任者任用を徹底することで、自然と女性の採択率も上がる。闇雲に数値目標を設定するのは適切ではない。
※	私はオーガナイザーをしました。私の提案したワークショップの採択が決定した後、(1) Graphical Abstractを出せ、(2) ワークショップのシナリオを作れ、(3) PowerPointにライブキャプションを入れる、という要求が学会主催者側からオーガナイザーを通じて各演者に要求が出されました。これら3つの要求はワークショップを募集する段階では提示されていませんでした。ワークショップをより良いものになりたいという主催者側の熱意の現れとも受け取ることもできますが、(Q7の欄に続く)
※	子供が小さいと朝夕のセッションに参加できないので、ハイブリッドはとてありがたかった。行き帰りの電車で視聴した。急な体調不良で現地参加できなくても視聴できるし、この形式は今後もずっと続けてほしい。これまでに参加した中学会等のなかで一番聞き取りやすい配信だった。

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	Powerpoint 使用することとか、必要のない縛りがあった。ライブキャプションのために、多数の機材がレンタルされ、使用されていない & 多数の会場係りの方がいるのを見たが、お金の使い方が不適切。参加費爆上げの理由にならないと思う。ライブキャプションは ethically right かもしれないが、字幕が出てくるのがうるさく、発表に集中できない。本末転倒。参加費爆上げの理由は事前にきちんと説明されるべき。事後は爆上げ分についての会計報告するべき。
※	指定演者のうちの女性講演者の割合は、急に無理に増やすと逆に男性差別となるので、大学院卒業者の男女比を参考に徐々に女性の割合を増やす決め方が良い。
※	激論を誘発してほしいとの要望があったことから、総合討論の時間を取ろうとした結果、全体として時間が足りなかったように思います。ただ、激論をどう起こせばよいかを考える非常に良い機会であったと思います。

質問7. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	採択するポスター数を減らした方が良い。多すぎてよくわからない。
※	オンライン参加だったのでポスターは全く見られなかった。ポスター発表者が、オンラインでの掲示を許可するか否かを選べる形式でのオンライン参加の可能性を探ってもよいのではと思う。その際にはチャット形式による質疑を行えるように周知するのがよい。
※	サイエンスピッチが新しい試みであったので、もっと宣伝すべきだったと思う。行う目的や誰がサイエンスピッチに選ばれた? 立候補した? かもよくわかっていない。また、サイエンスピッチとポスター番号とのリンクがオンラインタイムテーブルで付いていないのは良くなかった。
※	講演や企業展示を優先したいのは理解できるが、人が少ない時にゆっくりポスターを見たい人もいるので、常時電灯は付けておいて欲しかった。サイエンスピッチは発表者の声が聞き取りづらかった。
※	オンラインでのポスター発表はよかったが、分野を揃えていない分、どこに行ったら興味がある分野の発表があるのかわからなかった。
※	オンラインプログラムの活用は難しかった。サイエンスピッチにも、テーマ名と審査員名を載せると良いかも。ポスター番号とサイエンスピッチの番号が異なることもあって、ミススケジュールに登録しても、そのポスターに辿り着くことは難しかった。
※	サイエンスピッチは見えていないので評価は出来ないが参加した人からは高く評価されている。ポスター会場が広いのは良いが、広すぎて見たい分野、ポスター番号を探すのが大変だった。
※	節電のためなのか、セッション時間以外の時間帯で消灯されていた。もう少し明るくしていただければ良かった。
※	サイエンスピッチは面白い試みで、機器展の会場で行ったのは良かった。一方で、多くの会場が並行し、テーマも千差万別なものが並んでいたのも、聞きたいものを聞くということができなかった。まだ工夫の余地があると思う。
※	偶数と奇数番号で発表時間を区切っているのに、守らない人が多い。主催者が止めさせるべき。
※	サイエンスピッチは初めての試みであるにも関わらず、当日の発表の流れなどについて会場で説明がなかったので、どうしたらよいのかわからなかった。どの演題がどの会場で行われているのかを一括検索できる方法がなかったので、難しさをポスター会場の照明が暗すぎる。同時並行で同じ会場で発表があるために照明を落としていることは理解できるが、自由な時間にポスターが見れなくて不満。ただ、ポスター会場と発表の場が同じというのは移動の手間も省けてとても良いと思うので、その辺のアレンジをもう少し改善してほしい。サイエンスピッチ、あるのは良いと思います。ただ、審査形態が良くないと思う。若手優先で受賞ということであれば、応募時にきちんと記載して、ある程度の役職以上の人はそもそもサイエンスピッチの審査に応募できないようにしないと、審査する側も発表の準備をする側もどちらにとっても不幸でしかない。
※	ポスター会場の照明が時間帯によっては暗かった。朝から晩まで点けた方が良い。なぜ朝から掲示を指示したのか疑問。
※	ワークショップ等と同じホールで実施したため仕方がなかったのかもしれないが、ポスター発表の時間帯以外は照明が暗く、ポスターを見づらかった。
※	会場が広いとはいえ、音は響きます。ポスター会場に口頭発表会場があるのは全く適していないと思う。
※	ポスター会場が薄暗く、みにくい。
※	サイエンスピッチもオンライン配信の方が良い
※	ポスター会場のレイアウトが良くなかった。端まで行く次の番号が一番離れた端にあるため、カテゴリが同じでも一番離れたところにポスターが配置されている例が多々あった。ポスター会場途中に公演会場が設置されていたため、場所を見失いがちだった。
※	オンライン参加のため、ポスター発表に参加していません。
※	サイエンスピッチの優秀賞は、学生から選んだ方が良く思う。学生のモチベーションになるからです。
※	節電対策のためか、ポスターセッションの時間以外は照明が消されており、空き時間にポスターを見ることが出来なかった。全てのポスターが暗いというのではなく、一部のポスターだけが暗くなっていたので、不公平に感じた。セッションの時間以外にも照明をつけておいていただきたい。
※	ポスターディスカッサーが今年は配置されていなかったが、なくて良かったと思う。
※	サイエンスピッチそのものがよくなかったわけではないが、数が多すぎてフォローできない、会場がわかりにくい、場所によっては混みすぎなど課題がある気がする
※	ポスター番号と掲示場所の案内が手元で確認できればよいと感じた。
※	優秀発表者の女性比率が多い気がしたが、優先的に選んだのか? もし、差別を行うとしても発表者の男女比率までが介入できる上限だと思う。純粋に選ばれたのなら、非常に喜ばしいことだ。
※	発表時間以外だとポスターエリアの電気が消えていて、閲覧に支障があった自分と発表時間が被るポスターを対象時間外に見ておきたいときもあるし、議論が盛り上がり時間ぴったりに終わらないこともあるせめて前後30分ずつくらいでも閲覧しやすい状態を維持してほしい
※	ポスター撤収時間が19時なのは遅すぎる。17時ぐらいでないとその後の行動に支障が出る。
※	初日に、一日中ポスター発表していました。自前でビデオライトを持っていたので、自身のポスターだけをライトアップし、発表を続けられました。しかしながら、お客様の数がかなり少なく、寂しいものでした。きっと、いつでもすいているときにポスター鑑賞したい方は多いと思います。会場の照明は、好みの時間に、発表、鑑賞ができるように、明るい方がよいと思います。二日目以降は、弱く照明がつき、ご配慮いただいたようで、ありがとうございます。
※	ポスター発表は、従来もっと細かに分野ごとに分けてあってとても便利だった。目的の分野エリアに行けばまとめて話を聞くことができた。今回は検索しないと目的のポスターが見つけれず(あの広い会場で場所もばらばらだった)、しかも、会場のネット環境は絶望的であらかじめ検索しておかないとどうにもならなかった。このような問題のせいか、いつもよりポスター会場の熱がずっと低かったように思う。ポスター発表は研究者本人との距離が近くて一番楽しみにしているので、今回の形式はとても残念だった。是非とも元どおりにしてほしい。
※	発表時間は検討の余地があると思う方々の会場は寂しかった
※	初日、ポスター会場が暗かった。ポスター会場内に口頭発表のブースを設けず、ポスターをいつでも閲覧できるようにしてほしい。ポスターでは細胞の動きなどを動画で示するのが難しい。30~42インチ程度の大型液晶モニターを並べておいて、自身のノートPCなどをつなげて発表するあたらしい発表形式をポスター会場に新設してほしい。
※	会場でのポスターの並べ方が悪く、目的のポスターを探しにくかった
※	ポスター発表はやはりオンラインが良いと改めて感じました。
※	ポスターの配置は最低。番号の続きが展示会場の反対にあるというのはどうか! ポスターは一筆書きの様に並べないところにあるかわからない。運動不足の参加者に散歩させようという配慮は無用に願いたい。
※	いつもの年会と分野の区分けが微妙に異なっていて探しづらかった。戻してほしい。

質問7. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスター発表者にも、サイエンスピッチのように簡潔に内容を説明する場があった方がよい。
※	会場が広い上に参加者が多いので仕方ない部分もあるが、ポスターの場所によって人が行きにくいところと行きやすいところが出てくるので、どうしても質問者が多いところとそうでないところが出ていたように思う。
※	ポスターの設置場所に空間的な余裕があって議論し易かったです
※	・今回のように大会場で一緒に多数の企画が同時進行するような環境であれば、場を盛り上げるという観点からはサイエンスピッチは企画のひとつとしてよいと思いました。・純粋なサイエンスとして見た場合はなくてもよいかと思いました(発表者のメリットが大きくないため)。
※	一昨年オンラインポスター発表を見たが、一部顔出ししてない方もいらっしや、いかなものかと思った。オンラインだと顔を突き合わせるのに、昨年はオンラインとオンライン併用で、とてもは無いが、同時に参加するのは不可能。どちらかにするべき。オンラインだとポスター貼り逃げがいるのは玉に瑕だ。
※	シンポジウム・ワークショップがハイブリッドであるため、ポスター発表のためだけに現地に行くことはナンセンスとを感じる。ポスターについてはViceなどの新しいツールを用いて、仮想空間内でユーザー間の交流も可能な形でのオンライン化を積極的に進めるべき。
※	ポスター発表では声が聞こえづらいことがあるので、サイエンスピッチは場所も音声も確保されており、発表者の言うことが理解できてとてもよかったと思う。次回からもおこなってほしい。
※	サイエンスピッチでは、PI、ポスドク、学生と色々な立場の人が発表していて、とてもよい雰囲気であった。3分で自分の研究を発表するのは、なかなか難しいが、プレゼンのスキル向上につながると思った。来年度も是非、続けてもらいたい。
※	サイエンスピッチとはなんですか？実際に、発表者はこれを行っていたのでしょうか？
※	ポスター発表はリアル形式で見ることができたのが非常に良かったと思います。
※	会場の関係と思うが、発表番号が近いにもかかわらず、実際の発表場所が遠く離れていて、探すのに苦労したり、移動に苦労した。番号と発表場所はつなげてほしい。
※	電気代節約のためか、ポスターがポスター発表時の2時間ちょっとしか電気がついていないので、不便だった。発表時間の2時間を有効に使うために空き時間を使っての下見ができない。当初サイエンスピッチがあるの自体わからなかった。アピール不足だと思う。企画自体はいい。発表しても誰も質問する人がいないのもあるので。
※	サイエンスピッチの会場が展示会場内にあり、オープンな雰囲気だったこともあり、ブース間を移動しやすく、良かったと思いました。
※	会場が大きすぎて移動に時間がかかった。展示会場内に特設講演会場があるレイアウトは全く良くない。
※	サイエンスピッチに質疑応答があった方がよい
※	サイエンスピッチ、素晴らしい。想像以上に聴衆が多くて、あんなに盛り上がるもんかと驚いた。さらに開放型の発表会場なので、フラットと寄って聞いて、さらに興味あったポスターに寄って、、、と好循環を生んでいたと思う。どの学会でも同じシステムを導入すべきかと思う。
※	サイエンスピッチに非発表者として参加しました。確か3分だったと思いますが、適切な長さで面白かったと思います。ただし、「どのような形が適切か」に関してよく分かっていない発表者が多かったと思います。具体的には、「非専門家に分かるようなイントロ」「非専門家に分かるような結果の出し方」「非専門家に分かるようなまとめのメッセージ」などが重要であるという意識です。どのようなメッセージの出し方が適切かはわかりませんが、このような意識が学振／若手研究／基盤Cなどの研究費獲得につながると思いますので、ご検討頂ければと思います。
※	サイエンスピッチは会場が分散しており、狙ったものが聞けなかった。様式も確立しておらず、サマリーしか発表できない時間配分で不満だったことと、どのポスターの話かわからないものが多かった。最終日の後半発表は、途中でアナウンス、企業ブースの終了、証明消灯、バンド演奏などで発表時間が残っているのに発表できていなかった人がいたのがダメ。
※	発表時間以外の時間帯の照明が不十分で暗く、ポスターを事前に見て回るには不便でした。
※	ポスター会場の照明が暗かったです。
※	現地参加している同じ日に、オンラインのセッション(プレナリレクチャー)には正直参加する気が起きなかった。もったいなかったが、ホテルに自室にいるのならともかく、いったん会場に身をおくと、ポスター会場の雰囲気の中でオンラインのセッションに参加できないのではないかと。オンラインの日と現地開催(ただしオンラインの視聴可能)の日を、分けることで、それぞれ盛り上がる時期期待したい。幕張会場は十分に広く、感染防止はもちろん、混雑防止の点でも高く評価できるのではないかと。分子生物学会の会場として今後も使用してはどうか。
※	元来演題数が多いので、事前にキーワード検索で絞り込んだ演題だけでも相当数に上り、全てを見て回るのは困難で、偶数・奇数の演題番号で演者がポスター前にいるのがそれぞれ1時間という縛りでは説明をもらうことが叶わないものも多く、これも消化不良感を残しました。また、通りがかりで面白そうな演題に出会うというのもポスター発表会場を歩いて回る醍醐味であり、その時間も考えるともう少し時間的な余裕を持たせてもらいたいと感じました。
※	・ポスター会場内で半オープンなスペースを設置してサイエンスピッチを実施したことはすばらしかった。通りがかりに3分の発表であれば立ち止まって聞くことが可能である。人だかりもできていて、とても良い企画だった。今後ぜひ継続してほ
※	ポスター発表時間外、同会場のワークショップ口演を考慮してか、暗くて自由にポスター閲覧出来なかった。次回は、改善して欲しい。
※	不参加だったため回答できない
※	サイエンスピッチ、アワードは、漫然としたポスター発表に一石を投じる画期的な企画だと感じ、今後も継続を期待したい。ただ、学部生、大学院生、ポスドク、常勤研究者の発表が入り混じっており、3分の発表と言えどベテランな発表者がリッチなデータで発表すると土台が違う発表が入り混じっているなども感じた。個人的には、学部生や修士課程などの最若手層のエンカレッジが必要で、博士後期課程への進学を考える一助になるのが最も有意義であると感じる。発表者の学位でのクラス分けを導入するなど、今後の分子生物学会の発展にとって有意義な改編も期待したい。
※	ポスター閲覧は常時したいので、AMなど会場の暗さは難点であった。
※	ポスター発表は、聴きたい講演を全部まわるのは難しい。会期を4日間にして、各ポスターを二日ずつ掲載すると良いので
※	ワークショップの欄に書ききれなかったで、以下に続きを書きます: そのような熱意は“ワークショップを募る段階で(従って、演者が講演を引き受ける前に)明確に条件として書くべきだった”と思います。演者の中には「これじゃ、後出しジャンケンと同じだよ」と憤慨している人もいました。ワークショップの会場が、ポスター会場の中に点在する形で設置されていたために、ワークショップ会場に騒音が多く、落ち着いた雰囲気できワークショップをできませんでした。

質問7. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	サイエンスピッチは非常に良かった。ポスターの前で知らない人が盛り上がりであると聞きにくい。時間が短いので、データが少ない学生も敷居が低いだろうし、教員が受賞されているのも今後のやる気につながった(どうせ受賞は学生だけ…と思うとやる気が出ない)。
※	ポスターボードの間隔が以前の倍くらい広がったのは良かった。感染対策だけでなく、議論しやすいと言う点からも好ましい。これを実現するために(会場費の高い)幕張でやると言うのであれば、理にかなっていると思う。
※	新型コロナ後遺症について、人類はまだ十分に理解できていないことから、来年度以降の学会においては、「感染対策対応チーム」の巡回だけでなく事前(例えば学会期間中の宴会ルールの策定)・事後(新型コロナ感染有無についてのアンケート等)に十分な対策と精査を要する。

質問8. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて〈複数回答可〉（その他）

回答者番号	その他記述
※	パシフィコ横浜と比べ交通の便がとても悪いために午後の遅い時間帯の発表に参加するにはいささか無理があった。
※	日中(ポスター前後)の時間を取りすぎて、終了時間が遅くなりすぎていたので、改善した方がよい。18時くらいまでには終わらせた方がよい。セッションの最後の方は、人が帰ってしまう。
※	午後のワークショップ開始時間は多少前倒しを行った方がよいと思う。
※	夜遅くまでのセッションに慣れず驚いた。昼間の4-5時間セッションがない時間は、遠方からの参加者が移動するための時間として設けられたものだったのでしょうか。もしどこかでこの件について既にお話されていたら恐縮です。
※	ポスターの場所によっては、口頭発表会場の近くにあり、ポスター発表時間終了後すぐに消灯があり、議論だけでなくポスターを見ることすら困難であったのはもったいなかった。ポスター発表時間が終わって以降も議論ができるようになっていると良かった。口頭発表会場の場所に考慮があると良かったのだと思う。
※	並行して聴きたいセッションが多く、同時進行のセッションを減らしてほしい。もしくは、zoom配信の録画を後日見れるようにしてほしい。
※	子供がいるのでよるのセッションは聞けなかった、残念
※	タイムテーブルは適切。一つのWSに英語日本語が混在するのは混乱する。午前中、講演のためにポスター会場の明かりが落とされていたことは残念。
※	プログラム全体が9:00から18:00までに収まっていると参加しやすいです。
※	オンラインであったことも原因であると思うが、プレナリーレクチャーはやはり昼の一番いい時間帯にできるのがよいと思う
※	最終日の午後のワークショップは不満。すぐ横で閉会式をしているのに、同じ会場でワークショップを行うのは適切ではなと感じた。
※	朝が早すぎる。都内の研究者は宿泊費が出ないので、朝6時とかに家を出る必要があった。
※	最後のワークショップはポスター会場の片付け時間と重なっていた。またワークショップの途中で隣で演奏が始まった会場もあった。これは演者やオーガナイザー達に対して非常に不愉快な時間となった。これほどまでに発表者に対するリスペクトを欠いた学会は初めてであった。今回運営された方々が今後も関わるようであれば、二度と分子生物学会で発表するこ
※	最終日の夕方WSが始まってすぐから企業ブースのぼらしが始まり、トークが聞こえない。また、HPIにあったロックの音楽やピアノ演奏をWSなどしている時間にエンドレスに流す。正直、うるさい講演の邪魔。講演を聴きに行っているのに、聞こえないような状態にしておいて、議論を盛り上げろって意味がわからない。
※	午前と午後一番でワークショップを開催し、その後にポスター発表を持ってきて、時間を長く取るのもよいと感じた。ポスター発表には口頭発表よりも萌芽的な内容も多くあり、興味ある発表を回るのに2時間ではやや足りなかった。
※	仕方ないかもしれないが、最終日の夕方のセッションはどうしても人が少ないのは残念に思う。
※	午後17時以降のセッションが多く、夕方以降のセッションを繰り上げたほうがよかった
※	日本語ノンネイティブの参加者にとっては、常に英語で聞けるセッションがあるのが重要である。特に海外からスピーカーを呼んだ際に、日本語のセッションしかない時間帯があると厳しい。
※	全体的に良かったと思いますが、ワークショップの時間は、夕方18時半くらいまでにして欲しかった。
※	17時以降のセッションはすべてオンラインでも参加できるようにしていただけると助かります
※	プレナリーレクチャーが、早朝や夜遅くに設定されており、短い会期中で海外の講演者の時間帯を設定するのは難しいことは理解できますが、もう少し多くの参加者が期待できる時間帯の方が望ましいのではないかと思います。
※	夕方のワークショップ開始が遅い
※	最終日のポスターセッション後には、大半の参加者が帰ってしまい、オスターセッション以降のワークショップはとても寂しい印象であった。
※	早朝から開始して、夜の終了が早くになるようにしないと、夜のディスカッションができなかった。
※	発表時間は検討の余地があると思う夕方の会場は寂しかった
※	口演会場とポスター会場が少し遠く、移動に時間がかかった。
※	時差を考慮してか、夜のセッションがありました。夜のセッションには参加しにくいので、6時過ぎには終わるようにしてほしい。また、最終日も閉会式の後による7時までセッションがあり、参加者が非常に少なく、もったいなく感じました。閉会式をするのであれば、最後のセッションの後にしたほうがよいと思います。
※	夕方の最後のほうのセッションは帰る人が多く気の毒に感じました
※	日中、午後の早い時間に時間を持て余した一方で、シンポジウムが重複して聴講できなかった。
※	・英語話者のため、英語で聞けるセッションを各時間帯に複数配置することを今後もお願いしたい。・個人的には日本語セッションと英語セッションの割合を半々にし、かつ各時間帯にも半々で設置するのが望ましいと思った。
※	全面的にオンライン開催としたときのほうが一日中セッションがあり充実していたと感じる。今回は朝・夕のみで物足りなく
※	夕方のワークショップだと、帰る時間と重なってしまうので、もう少し早い午後の時間帯にもらいたいです。
※	学会最終日の閉会式について感想です。ワークショップの最後にセッションが始まる以前に、閉会式が終了していたかと思いますが、これでは、最後のセッションを見捨てる印象を受けました。次回は、閉会式は、すべての学会イベントの終了後に行うように強く要望いたします。
※	今回一番良かったことは外に出ずに移動できたことではないかと思う。横浜、神戸、博多全て、会場移動に外に出る必要がある。雨や風の強い日はつらい。欠点は観光地でないこと。
※	不参加でした。
※	昼に時間があいていた
※	時間の都合で、ピッチとポスターセッションしか参加できませんでした。
※	夕方のワークショップの途中で帰宅する必要があった。特に首都圏周辺で、泊まり前提の時間設定は、仮に発表する側でも困るかなと思う。
※	遅い時間のセッションが少し多かった。
※	夕方のワークショップの開始時間がちょっと遅すぎるかなと思いました。特に最終日。
※	最終日午後のワークショップは人の入りが良くないので、時間をもう少し早めた方がよいと思いました。
※	HFSP0、ASCB や EMBO の協力を得て、前日から最終日(閉会式での表彰)までイベントを設けた以上、英語セッションを全日程に配置するのが当然。逆に、上記関係者が、全日程滞在しただけのリターンがあったと考えておられるかな? HFSP0のブースや関連シンポ/WS/フォーラムに何名参加した? 初日シンポジウムでは素晴らしい演者に比して会場は寂しかった。ポスター発表を午後一番の時間帯とし、口頭発表のセッションがそれを挟むように配置することは、展示場/ポスター会場に参加者を止め、今後も企業の協賛を集める上で、必須。この方針は引き続き維持すべきで、アンケートに

質問8. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて〈複数回答可〉（その他）

回答者 番号	その他記述
※	午前のセッションが終わってから、お昼休み、少し間をおいてポスターという流れでしたので、おそらくランチョンに出ずに外に昼食に行かれた方が多かったかもしれません。
※	午後のセッションがもう少し早い時間であると非常に有難いです。
※	不参加だったため回答できない
※	先に書いたように子どもの送迎があり、現地にいられる時間が短い身にとっては、ポスターは、ぜひ昼間に開催してほしい
※	ポスター発表後に帰宅する方も多くて、夕方のワークショップは人が少ない印象を受けた(特に最終日)。ポスター発表を夕方に配置した方がポスター会場で盛り上がった後に懇親会に行くこともできたりと、プログラム構成的には良いと感じた。
※	詰め込みすぎ。

質問9. フォーラムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述(参加されたフォーラムの感想を含めて)
※	もっと早い時間に聞きたいという気持ち反面、ホテルでビール片手に見れるのも楽しめた。
※	オンデマンドも併用して、ライブでは重なっていたセッションも試聴できるようにした方がよいと思います。
※	参加していないので評価は難しいがフォーラムは必要だと思う。
※	なかなか夜遅い時間になると参加しづらいです。毎日、往復2.5時間かけて会場で参加していたため。フォーラムは日を別にしてオンラインにするのも一案かもしれません。
※	スタートする時間が遅いから参加できない
※	不要な会と思われる
※	せっかく良いフォーラムをやっているのに、時間が遅いせいで聞く人間に限られている。もったいない。
※	首都圏で日帰りをしないといけず、遅い時間だったので参加できなかった。
※	フォーラムのオンライン配信はいろんなテーマを知ってもらうためにもとても良いと思いますので、ぜひ続けていただければと思います。
※	幕張の辺りで21時近くまでやられるとその後の食事にも困る最終日に最後まで出ると、その日のうちに帰れない途中で退出する人も多くて、参加したフォーラムは若い人の短めの発表が後ろの方に固まっていたから、聴衆がどんどん減って行って可哀想だった食事に出て交流したりも学会の醍醐味だと思うし、19時台には終わってほしいまだセッションが残っているのに閉会式をやることになるのもどうかと思った
※	JST企画はよかったが、時間帯が遅すぎて聴衆がすくなかった
※	フォーラムの時間帯には議論で疲れてしまっており、勿体無い内容が多かった。平日の昼間の元気な時間帯にしてもらいたかった。
※	夜の時間は参加が難しい
※	もっと聴衆に来ていただきたいフォーラムだったにも関わらず、遅い時間だったためか人数が少なかった。
※	・時間が遅すぎ、関東圏の参加者は多くが日帰りのため参加率が著しく悪い(フォーラムのために宿泊を検討する参加者はレアであろうと思う)・オンラインの参加者は見えないので発表者からすると観客がおらずガラガラであるという印象が残る。・会場が暗く、肌寒かった。ライトも全体的に暗く、演者の顔も見えづらく、発表に集中できる環境ではなかった。夜間のセッションは普通の会議室で行った方がよい。
※	フォーラムに参加している人が時間的にほとんどいなかった。特に若い人がオーガナイズしているのに参加者がお友達だけとはとても残念です。時間的にお昼やポスターとかぶせても良いと思います。
※	不参加でした。
※	それまでの議論で十分燃え尽きました。。
※	ワークショップの時間帯については、遅い時間帯はもう少し早めの時間帯を考慮しても良いかと思った。
※	不参加だったため回答できない
※	不参加なので分かりません。
※	意義がよくわからない。時間帯も不適切。

質問10. 年会の発表言語について(本年会では、シンポジウム:英語、ワークショップ:オーガナイザーに一任) <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	日本で学び働く、非日本語話者にも配慮して柔軟に対応する必要はあると感じるが、国際学会としないのであれば、情報の共有を優先し、日本語での発表と議論が許されてよいように思う。ライブキャプションの正確性は、話者に大きく依存したため、助けになる場合とならない場合があった。
※	英語を聞くのに集中したため、あまり字幕を見る暇がなかった。
※	本年会の方法でいいと思う
※	ライブキャプションはまだまだ学習量が足りないと感じた。もっと正確に表示してくれると便利なので、継続使用、改善を望
※	ライブキャプションの表示は誤変換が多く、聴講の妨げになった(「同定」が「童貞」と変換されるのはまずいと思う)。また、ライブキャプション表示を行っていないセッションも多く、ルールとして徹底されていないように感じた。
※	字幕の正確性に非常に問題があったように思います。
※	ライブ字幕を入れる技術・講演者があるなら、質疑にこそ入ると良いと思う。講演のライブキャプションは、なくても十分に理解できはと思うが、同一発表者でも、質疑応答の英語を理解するのは難しかった。
※	パワーポイントの字幕はうまく表示出来ていない。技術の成熟を待つべきだろう。
※	発表者や参加者の母語や世代に関係なく、英語での発表や質疑応答に大きなトラブルはないように感じました。むしろ、英語でも堂々とわかりやすく発表している人が多く見られます。一方で、分野の多様性、経験の浅い学生が参加していることを考えると、日本語の発表もあった方が良さそうです。現状は、うまくバランスが取れていると感じますので、今後もこのスタイルを維持されることを希望します。
※	ライブキャプションはよかったが、日本の発表者のときにでないことがあった。日本の方のJapanese accentの方がより聞きとりやすいことも多々あるので、英語のセッションでのライブキャプションを徹底した方がよい。
※	ライブキャプションは、特に日本語の変換がぐちゃぐちゃで意味はなかった。むしろスライドのサイズを圧迫しただけであった。トークと逆の言語に変換するのなら(日本語でのトークを英語にするなどなら)意味はあったと思う
※	日本語のキャプションはスライドが小さくなり、邪魔でしかないと感じた。
※	字幕表示は正しい表記にすることが難しいことと、その分スライドの表示が小さくなって見えにくくなるので、現状ではメリットは少ないと感じました。
※	全部英語でいいです。
※	日本語の発表を行うのに、使用言語の字幕は不要だと感じた。英語の発表をする際に日本語の字幕を入れるのは良いと
※	基本的に、できるだけ英語にすべきと思います。
※	日本語での参加・討論・発表の余地を十分残しておくことは分子生物学会員を確保しながら学問としても発展するために不可欠だと思います。
※	ライブキャプションは発音がNativeでないと変換がおかしくなるので、発表側も聴衆側も気が散るように思った。
※	学会の国際化を推進するため、シンポジウムは全て英語にすべきである。英語の講演に関しては、ライブキャプションが助けになると思う。日本語の講演のライブキャプションは、漢字等の正確さを欠いた。スライドは、日本語の発表でも英語であることは重要であり、今後も続けるべきである。ワークショップに関しては、日本語の方が盛り上がる傾向を感じたので、今年のようにオーガナイザーに一任という形がいいと思う。
※	スライドキャプションは良い試みでしたが、技術が追いついていない感じでした。もう少し正確に聞き取って素早く表示できるようになってから導入した方がよいと思います。また、日本語発表だったら英語翻訳など、同じ言語の表示ではなく、翻訳の方がよいと思います。どちらにせよ、技術が後一歩だと思いました。
※	英語字幕は、私も含めて日本人の発表で発音が上手ではない場合や、分子名の入った文章を口にした場合に、まったく間違った表示がされてしまうことが多く、逆にdistractingに感じました。
※	スライドを小さくしてまで字幕を入れるメリットはなかったと思う。肝心のデータが見えない場面があった。
※	全て英語で良いと思う。ライブキャプションも不要。
※	ライブキャプションは、Office365にしかない機能で全員が使えるわけでもないし、実際に使っている発表を見てても日本語・英語ともに特に専門用語の「起こし間違い」が多く、まともな文章になっていない場合が多い。字幕が出るとそっちに気が行ってしまいうので、むしろない方が発表に集中できる。
※	参加した限りワークショップではかなりの演者が「最新の」Powerpointを利用しているわけではなく、旧versionのPowerPointやKeynoteなどほかのpresentationソフトを利用していたため、ライブキャプションが利用できた発表は会期中1つしかみなかった。字幕の利用はアクセシビリティの向上に寄与するので重要な課題だが、発表者だけでなく運営側でも相応のシステムを準備する必要があると感じた
※	やはり英語発表だと議論が乏しくなる。面白い発表なのに議論が広がらないことが多くもったいないと感じた。
※	発表言語の選択については、学会として、学術集会の役割や目的を定めて、決めるのが良い。
※	今回の状態に、異論はありません。
※	基本英語でよい。質疑は必要ならば日本語でも座長に訳をお願いするなどでもよいことにしておけばよい。現状うまくいっていると思う。
※	質疑が噛み合わず諦める状況などを見ていると日本語の使用を完全に排除して議論に支障が出るよりは議論できる環境を優先して言語の使用には柔軟性を持たせる方がよいように感じる
※	日本人同士で質疑応答する際に英語でやりとりしていた際に、お互いに内容をmisunderstandingしていたことがあり、英語が得意でなければ日本語でやりとりした方がよいと思いました。ただ、日本語がわからない参加者もいると思いましたので、座長もしくは英語でサポートできる専門の人がチャットボックスに簡単に内容を英語でまとめると、工夫が必要かと思いました。せっかくオンラインでやっているのに、チャットボックスを活用すればいいと思います。
※	パワーポイントのライブキャプション機能は、専門用語などを拾えず、表示も遅いため、学会で使うにはまだ早いと感じた。
※	ライブキャプションの精度が低く、かえって邪魔だった。発表者がはっきりしゃべればよい。マイクの使用について座長から指示してほしい。聞こえない発表は発表にあらず。
※	ライブキャプションはないほうが良かった(実際あえて使っていない発表も多かった)。ちらちら文字がでてきて、しかも間違っていることも多くて、意味がないというよりむしろ邪魔だった。
※	ライブキャプションは単語登録ができるようになるまでつけても単語を認識できないため文章にならない。
※	分子生物学会のような大きな学会では、英語でやるべき。それに向けて、研究者は日常的に英語を勉強すべき。話せない人に配慮するより、話せるように努力する方が大事。
※	キャプションは日本語の訳ミスがおおかったです

質問10. 年会の発表言語について(本年会では、シンポジウム:英語、ワークショップ:オーガナイザーに一任) <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	・ライブキャプションは言語によらず発表の理解の妨げとなり、発表者にとっても負担となるので即刻廃止すべき(運営委員会の中で反対意見は出なかったのか?)(演者自身が利用を希望する場合を除く)・英語のセッションの割合が少なすぎ、海外演者を招待しにくい・むしろ発表言語は英語での議論が充実することを目指すべき。なぜわざわざ日本語に寄せようとするのか?生物物理学会年會も英語のはず。
※	現地発表の際に、ライブキャプションがはいったためスライドが小さくなり会場の中ほどに座っていたが、スライドの文字や図表が見えづかった。ライブキャプションは意味がないため、やめたほうが良いだけで、発表会場の状況に進行役がもっと配慮をしてもらいたい。
※	すべてオーガナイザーに一任で良いと思う
※	ライブキャプションは変換ミスが多く、よくなかった。演者が話しているスライドに文字が動くのが気が散ってしまい、講演に集中できなかった。少なくともオンサイトの発表ではライブキャプションは不要だと思う。また、演者の講演中にライブキャプションがハッキングされて、まったく関係のない内容が表示されてしまうことがあった。しかし、演者はまったく気が付かなかったので講演を一時停止してライブキャプションのみを中止した講演があった。ハッキングされたことは講演内容も漏れてしまう恐れがあり、大変遺憾だと思う。
※	ライブキャプション(特に日本語)はクオリティがひどかった。今回の学会で最も良くない点であった。ほとんど意味のない言葉の羅列になっており、時には放送禁止用語が出てきたりして失笑を買っていた。画面も小さくなり、内容に意識を集中することが難しかった。英語キャプションはまだミスも少なく、助かることもあるが、少なくとも日本語はいらないと感じた。
※	分子生物学会は自身の専門外分野の知見を得ることも重要な役割だと思います。なので、日本語で正確に理解したいです。英語での聞き取りのみでは、内容の理解が不安です。
※	スライドキャプションがあまり賢くなく、邪魔でした。
※	ライブキャプションの性能が理解の助けとなるレベルに達していない印象があるが、導入は評価でき、今後もより良いツールを模索して欲しい。
※	時間の都合で、ピッチとポスターセッションしか参加できませんでした。
※	英語の発表があってもいいが、英語を指定するのはよくない。日本の学会なのだから。
※	ライブキャプションは私の周囲では評判が悪かったです。特に外国人には評判が悪かったように感じています。私も不要と思います。目がついて文字を追ってしまい、スライドに注意が行かなくなりがちです。言語選択は極めて難しい問題と感じます。以前の自分は全面的に英語にすべきという意見でしたが、最近では、演者の力量や議論の充実なども考慮して、日本語で行うという選択肢も残しておくべきではないかと感じています。
※	ライブキャプションによる配慮はよいと思いますが、PCの聞き取り技術が追いついていないため、不正確であり意味をなしていないのではないかと思います。
※	スライドの日英併記は、現実的にはキーワードに限定するしかないし、それはぜひ実行すべきだと思う。英語字幕はかえって邪魔だった。
※	ライブキャプションは良い案だと思いましたが、特に日本語は認識が弱く、間違えた言葉の羅列が多かったと思います。現状の技術ではあまり意味がないかもしれず、技術の向上が望まれます。
※	ライブキャプションを使用するに当たり、まずプレゼンテーションソフトがパワーポイントの最新版に限定されることが発表者への負担になると思いました(普段から他のプラットフォームを利用している者にとっては不利益だと感じます)。発表の中では当然のことながら沢山の学術・専門用語が使われており、それが正確にライブキャプションに反映されることは現状では難しく、実際に思わず笑ってしまうような字幕が登場して、むしろ発表の妨げになっていたように思います。
※	今年度のような形態がベストと思いましたが、毎年書かせていただいておりますが、分子生物学会は自分の分野の議論を深めるという目的の一方、自分とは異なる分野の発表を見に行き勉強をすることのできる機会と思っています。その際、やはり分野違いなので、日本語の方が助かります。また、分生はいろいろな学生に間口の広い学会と認識しています。彼らの英語力には残念ながらばらつきがあるので、言語を選べるのは良いと感じました。
※	・(発表者)事前にライブキャプションの準備・動作確認をしていたにもかかわらず、当日直前の設定を誤ってしまったため使用できず申し訳なかった。
※	口頭発表は全部英語で良いとおもう。スライドキャプションについては、日本語表示にしても英語表示にしても正確性があまりに低かったので、なるべく見ないようにしていた。あまりに酷い間違いで会場が失笑で溢れていたことがあったので、現時点の性能であれば無くてもよいと思う。
※	日本語字幕は、タイプミスが多くて止めた方がいいと思う。例:同定→童貞
※	不参加だったため回答できない
※	ライブキャプションのせいで集中できない。
※	日本人同士が英語で議論しようとしても、ほとんどの場合、何を言いたいかさっぱり理解できない。英国と日本がほぼ地球の反対側にある為、無理からぬことではあるが、もし議論が充実することを優先するのであれば、日本人同士の日本語議論については、オーガナイザーや通訳者が英訳して説明する必要がある。
※	字幕設定の意図がよくわかりませんでした。私自身は設定がうまくいなくて悩んでいたのですが、直前にSNSで字幕は任意という情報を見かけて結局設定しないでいきました。聴衆として参加していた際にも、あまり理解の助けとなるようには感じませんでした。英語の理解が難しい日本人学生向けだったのでしょうか?それなら、英語発表のみ、とアナウンスしていただきたかったです。

質問11. 本年会では一人一演題の制限を廃止しました(ただし複数演題の投稿は可能ですが、異なる研究内容に限るものとしました)。また、発表者に演題投稿時Graphical Abstractの提出をお願いしたり、講演セッションについては内容が一目で把握できるようセッション名の略称も付けていただくなど、参加者のサイエンティフィックな出会いの可能性を広げる仕掛けを試みています。その点についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	グラフィカルアブストラクトは、検索するうえでは大いに役立ったが、準備は通常のアブストラクトよりも負担が大きかった。悩ましい。
※	ポスター発表を同じ人が1人で3演題以上行うのは、現実的ではなく、代理の人を立てても、その人の業績にはならないので、ポスター発表の場合は2演題までにした方が良いと思います。
※	graphical abstractは一覧では見えない大きさだったので、クリックしなくても見える大きさで表示して欲しい
※	トークで聴いたことをポスターで質問できたのが良かった。
※	Graphic Abstractは良いのだが、もっと画質を落として軽く動くようにしてほしい。サイエンスピッチにこそ、タイトル略称があると良いかな。
※	複数演題がどれくらいあったのかわからないが、自分としては気にならなかった。聴衆としてはGAはわかりやすいので今後も続けてほしい。
※	「シンポジウム・ワークショップ・フォーラムのタイトルに略称が付いていたことにはあまりメリットを感じなかった」にチェックを入れましたが、そうではなく、略称だと気づかずに抄録まで見に行ったときに、略称の意味合いとセッションの本来の意味合いと異なると感じました。
※	分生は参加人数がかなり多いので、なるべく多くの人に発表の機会を与え、ダイバーシティを確保すべきである。一人一演題のルールは無くさない方がいいのでは。
※	一人一演題という制約があれば、結果として多様な演者(各WSのオーガナイザーがすぐに思いつようなメジャープレーヤーとは違う演者)の掘り起こしにつながると思う。
※	もともと、グラフィカルな研究を行っています。私は、準備に苦労はありませんでした。グラフィカアブストを作るかどうかは、選択性でも良いと思います。
※	シンポジウム・ワークショップ・フォーラムのタイトルの略称は、むしろ混乱を招いた。略称では無く、別称だったので、探せなかった。
※	Graphical Abstractは演題登録のハードルを上げるので必要ない。Graphical Abstractにならないプレリミナリーな結果を排除する結果となるのが危惧される。
※	・発表者の多様性を確保する面から一人1演題が望ましいと思う。・略称の文字数制限が厳しすぎる・Graphical abstractは準備が大変でありクオリティにばらつきが出るのがよくないと思った
※	Graphical abstractを求められたため、「現段階ではまだ未完成だが、大学院生に発表させたい」という目的の発表にはハードルが高く、エントリーを躊躇したものがあつた。ポスター発表も含め、学会発表は論文公開間近の研究に絞りたいと言うことであれば、Graphical abstractを求めてもいいのですが、その場合は学生発表は減ることを念頭においた方がいい
※	不参加でした。
※	一人で二演題程度が上限とすべきと思う。
※	時間の都合で、ピッチとポスターセッションしか参加できませんでした。
※	女性比率30%にするのは良いことだと思うが、その場合はどうしても女性の絶対数が足りないのでは、しばらくの間は複数演題を認める方が良いと思う。
※	女性の演者集めが大変なので、女性演者率30%程度を維持するのであれば、一人複数演題登録可能とすべきだと思います。Graphical Abstractは作る側の壮大な時間の無駄です。参加者目線と言うと、当日の会場で一つずつ図を見る暇など全然ないので、結局タイトルをスクロールして見たい発表を選んでいる感じです。日本はただでさえ忙しい国なので、研究者の雑用(労力に見合わない労働)は極力減らすべきで、今後の年会ではGraphical Abstractは絶対やめるべきと強く主張
※	男女問わず若手(特に院生)の発表者を増やし、年会のみならず研究分野を盛り上げていくためにも、PIの発表は1演題にすべきです。PIかどうか判定は難しくなる可能性があり、運営委員会側の手間が増えて疲弊するだけなので、元の一人一演題に戻すべきです。
※	複数演題の投稿をよしとしたことは、ワークショップオーガナイザーとしては演者の取り合い合戦に腐心することから解放されたので大変助かりました。Graphic Abstractは面白い試みだと思いましたが、作成者によって「温度差」があり、見てもよく分からないものも多かったように思います。また、Graphic Abstractを閲覧するのに結局は要旨を個別に開かなければならず、演題検索の効率を上げる足しにはなりません。これを行うのであれば、Graphic Abstractのみをまとめて閲覧できるページが必要だったと思います。
※	・Graphical Abstract, 略称タイトルは便利だと感じた。ビジュアルに短時間で内容を判断できるのはメリットがある。
※	不参加だったため回答できない
※	複合的分野なセッションが多く、セッションタイトルと各発表内容に乖離があるように感じる場面があつた。目当ての発表を見つけるのに少し混乱した。オンラインサイトも探しにくく見にくい点も問題であつた。
※	加えてポスターにGAbstを掲載して欲しかった。
※	略称は基本的には良かったが、意味がとれないものもあつたのが不満。グラフィカルアブストラクトは非常に良かった。要旨をパラパラ見る、という作業が楽しくなった施工率が良かった。
※	プログラムのwebサイトが煩雑すぎて、目的のものを見つけにくい。シンポジウム・WSについてはタイトルだけでいいので、A4サイズの冊子が欲しい。

質問12. 年会の参加登録・演題登録システムおよび視聴サイト(AGRI SMILE社ONLINE CONF)や当日のトラブル対応などのオンラインサポート体制についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	プレナリーレクチャーがマイスケジュールに表示されなかった。
※	オンラインでの検索がうまく機能していなかった。明らかに存在するはずのキーワード(自分の講演に含まれる語)などに出てこなかった。また、検索項目がオーラルとポスターに分かれているので全体をとおして検索したいのにそれぞれで二回検索する必要があり、手間がかかる。検索項目に番号も入れて欲しい。要旨集を見ながら気になるポスターをconfitのマイスケジュールに入れるために検索する時に番号で入れられた方が早いので。
※	要旨・プログラムサイトのタイムテーブルは見やすかったが、マイスケジュールは羅列でテーブルになっていないので見にくかった。
※	ポスター発表とオーラル発表どちらもいちどに同じキーワードで検索できるように来年以降していただけると大変助かります
※	プログラムのマイスケジュールは便利だったが、演題一覧を見るには不便だった。
※	要旨・プログラムサイトは使いやすかったが、スマートフォンでwifiにつなげずに繋ごうとすると重くなるのか開けず困った。またwifiのパスワードをもう少し複数の場所に記載してもらえると、紙面で手渡してもらえたら助かった。
※	専用アプリがあるとよかった。
※	ポスター番号とサイエンスピッチの番号が異なることもあって、マイスケジュールに登録しても、そのポスターに辿り着くことは難しかった。要旨のサイトとプログラムサイトが繋がっていないのが問題か。演題名一覧のPDFから興味深い演題を見つけても、グラフィックアブストラクトに飛べない。対応するポスター番号も同定できないので、現地で見れない。逆にグラフィックアブストラクトのガチャから、興味深いワークショップ演題を見つけても、そのワークショップ内の他の演題を確認する
※	ONLINE CONFの使い勝手に問題はなかった。検索性能は要改善。
※	検索機能が分割されすぎていて、また検索機能があまり高くない、使いにくかった。演題からセッションページに戻れないなど、使いにくさを感じた。会場図は絶対にオンラインシステムに載せて欲しい(毎年要望しているがなかなか実装いただけず、PDFへのリンクを置くところからスタートすればほぼゼロエフォートで実装できると思うが)協賛企業を検索できず、さらに展示会場図もなかったため、協賛ブースを探すのに苦労した。自分の発表(と共著発表)くらいは自動的に紐づいて欲しい
※	演題の検索がオーラルとポスターと入り口が分かれていたのが非常に使いにくかった。また、毎回ネットに繋がらないといけないのは煩わしいので、できれば以前のような要旨集(できれば索引付きで)をPDFでダウンロードできるようにして欲しい
※	アプリの方が良い。iPhoneのSafariを履歴が残らないようにしているので、ログインが面倒になる。地図がサイトから見られなくて不便だった。
※	Graphical Abstractのため、オンライン要旨を見るときに、演題のタイトルが見切れてしまったのが不満。そこが改善されるならGraphical Abstractはありだと思う。
※	PDFに変換すると見にくくなった。
※	マイスケジュールで、ポスター発表の表示が番号順ではなく、不便であった。
※	分生のオンラインシステムは毎年使いにくいですが、今年は過去一使いにくかった。数ページのPDFを配るだけで検索やメモなど全て出来るので、そうしてほしい。お金の無駄使いはやめていただきたい。
※	演題を探すのに時間がかかる。ソフトが重いのか?
※	発表のページに書かれている著者名をクリックすると著者のプロフィールに飛べるようにしてほしい
※	オンサイトもオンラインも、今まで参加した分子生物学会の中で一番トラブルが多かったように思います。スライドが動かない、突然にコネクションが切れる、など。
※	プログラムの検索が遅いのが不満だった。
※	年会のホームページからどのように要旨やプログラムを見るのか分からなかった(PC版もスマホ版も)。
※	検索機能がわかりにくいもしくは不便
※	・演題リストからワンクリックで要旨にたどりつかないのが不便に感じた・昨年まであった「いいねされた数」がなくなったので、自分の発表がどのくらい他人から注目されているのかわからなかった
※	キーワード検索の設定がもう少しフレキシブルであると良い。例えば大文字、小文字などを厳密に区別しているために、検索に引っかからない演題があった。
※	演題や発表者の検索は、全体を一括で検索できる仕組みの方がよいと思いました。
※	もっと汎用の仕組みを使うなどして学会のオンライン化にかかる費用は圧縮すべき。要旨やプログラムはPDFで十分。
※	Abstractを1つ1つダウンロードしないといけなかったため、少し不便だった。
※	一部Zoomで視聴しましたが、演者発表中にもスライドが共有されておらず、座長の席を延々と映していた場面がありました。このようなミスをチェックできる体制の充実が必要と感じました。
※	演題検索のとき、発表があるのは確実なのに著者名で検索してもヒットしないことが多く、使いにくいと感じた(結局本人に尋ねた)。口頭とポスターで検索ページが分かれていたが、一緒になっていた上で、口頭だけで探したい or ポスターだけで探したい or まとめて探したい が選べた方が便利だと思った。
※	オンライン講演セッションは、音声がつつ切りになる時が多くあったので(スクショされている?)、聞きづらかった。
※	検索がうまくいかない。
※	iOSのバージョンが古く、スマホでONLINE CONFを使えなかったことは残念だった。
※	要旨を印刷してみるとときにグラフィカルアブストラクトが大きく印刷されて2ページになるのが不便だった。PDFで1枚に収まるようにしてほしい。また、要旨に演題番号がなく不便だった。要旨の検索もあまりうまくできなかったため、改善してほしい。要旨・プログラムサイトに会場マップなどの情報がなく、不便だった。携帯やPadですべて対応できるようにして
※	要旨・プログラムサイトのみで興味がある演題を見つけることに関しては、とても使いづらく感じました。下記のように、「一般演題のタイトル情報まで入った年会プログラム集冊子」と「プログラムサイト」の両方で演題を探索する体制の方が良いと思います。「年会プログラム集冊子」に、以前のように、「日程表」や「交通および会場の案内」も加えてほしいです。
※	オンラインで視聴可能となりプログラムを見て別会場の演題も聞こうと予定していたが、マイスケジュールに入れていても次の予定の連絡が来ないので聞き逃すことがあった。がん学会などでは事前にマイスケジュールに入れていたものは開始前にお知らせが来るので聞き逃しが無い。このようなシステムを組み込めると良いと思った。推しガチャなどは良い試みだったが、途中で要旨を確認して戻ると同じ演題が出てきて、使いにくかった。またプログラムを見てお気に入りに入れていたものが、推しガチャやおすすめ反映されているかを確認しにくかった点は改善してほしい。
※	ポスター発表のマイスケジュールへの登録がスマホからのみというのは何とかならないか。しかも問い合わせで初めて分かった。また、登録後の順番の変更を可能してほしい。ポスター番号順に並べないと会場をうろろろすることになる。できれば以前のような年会アプリが欲しい。

質問12. 年会の参加登録・演題登録システムおよび視聴サイト(AGRI SMILE社ONLINE CONF)や当日のトラブル対応などのオンラインサポート体制についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	検索後に、その発表のセッション全体にリンクできるといいかと思った(口頭の場合)
※	プログラムサイトの検索機能について、全体検索ができず面倒すぎた。Safariで文字のずれがあり、見にくい。タイムテーブル全体像が見にくい。公演場所が直感的に分かりにくい。
※	演題数が多いので、発表者やキーワードを検索できるようにしてほしい。
※	アクセスが集中していたからか、動作が遅いことがあった。
※	タイムテーブルからワークショップの演題のページがリンクされていたら便利だったと思う。今回のものはワークショップ全体の要旨しかリンクされていなかった。
※	プログラムサイトの検索が使いずらすぎる。全くヒットしない。不便だった。
※	会場内の場所の案内が欲しかった
※	シンポジウム、ワークショップは問題ないが、ポスター発表を奇数、偶数で分けられるとか、ソーティングできるとか、タグ付けができると良いと感じた。
※	アンドロイドから接続した際に要旨の全文検索がきちんと機能しなかった。要旨PDFは現地でダウンロードするにはサイズが大きすぎるため不便だった。
※	発表検索機能について、発表者だけでなく共同発表者からの個人サイトからでも、発表ページに移行できると便利だと思
※	事前登録でないと非常に高くなる。事前登録のリマインドがほしい。
※	プログラムのPDFが欲しかったです。必要なところは印刷したかった。
※	演題タイトルだけは、冊子体として配付してほしいです。ネットは重くなることもあり、不便でした。
※	不参加でした。
※	参加費が高額になりすぎている。
※	PDFだけで良いので、従来型の要旨・プログラム集がダウンロード出来ると、オフラインでも見れるので絶対便利だと思う。
※	下とも重複しますが、アプリの方が良いと思いましたが、費用対効果によりますね。
※	オンライン抄録は抄録がどのプログラムに入っているのか開くと見えないので意味がない。出張申請で発表日時と抄録が必要なのに印刷できない。また、現場で検索しようにも戻るの扱いが特殊で変なところまで戻ってしまったり、タブレットではスマホの大きさの小さい画面しか出なかった。結局スマートフォンを使ったが、バッテリー切れになり困った。
※	ポスター会場をむやみにくらくして欲しくない。いつでも見るができない。
※	フォーラムで、急に参加者一人がオンライン参加になったが、実にスムーズに発表やパネルディスカッションができて、サポート体制が最高に良かった。
※	細かいことを言ったらキリがないですが、まああんなものではないかな、と思います。
※	Graphical abstractの図がPDF化すると崩れてしまうことがあった。次回以降は、その旨を注意喚起するとともに、そのようなことが起きないようにシステムとして改善することが望ましい。Graphical abstract自体は大変良い試みと思っている。
※	検索をかけるときに、横断的な検索や条件検索がうまく機能しないものがあった。
※	・オンラインサイトは検索しにくい部分もあったが、概ね使いやすかった。・オンサイト参加であっても、オーバーラップしているセッションの視聴やホテルからの視聴もできるので、オンライン視聴できたのはありがたかった。
※	とにかく動作が重くて、非常に使いにくかった。もっとシンプルな仕様にして欲しい。
※	不参加だったため回答できない
※	アプリの方が断然使いやすかった。
※	演題全体を一括で検索できないのが不便だった
※	ログインに失敗したときに、理由を明示して欲しい。(ID非存在とかパスワード不正とか)スマホで失敗した時にWEBブラウザのバージョンが云々と出るのは、明らかにおかしい。

質問13. 本年会では昨年に続き、一般演題のタイトル情報まで入った詳細な(A5サイズ・厚さ1~2cmの)年会プログラム集冊子や年会アプリは作成しませんでした。また、会員の皆様にはプログラム集冊子に同封発送していた学会会報(年3回発行)の11月号も印刷版作成を見送っています。これらについてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンラインのみにしてしまうとネットワークが繋がらない所にいる時に全く情報にアクセスできなくなり不便になる。できればタイトルくらいは冊子で確認したい。また、要旨がPDFになっているがポスターやワークショップなど分類ごとに分けられているので全体を通して検索することができず不便に感じた。ダウンロードも一つずつ落とすのは手間がかかるので一括でできるようにしてほしい。
※	ウェブ版のプログラム(タイムテーブル)のセッション全体の欄に、講演ごとの予定開始時間と終了時間が表示されるとより便利だったように思います。
※	やはり最小限の情報が冊子であるのは便利だと思う。小冊子のサイズも小さくて扱いやすくてよかった。
※	プログラム検索が発表形式で2つに分かれているなど、不便な点が多々あったので改善を望みます。
※	オーラルのタイトルくらいは冊子にあると良いかなと思った。
※	スマートフォンでは日程の確認のためにその都度年会サイトに接続する必要があり、多くの場合ログインが必要であり煩雑に感じた。予算が許せば、絶対アプリの方が便利である。
※	ガイドマップに気づかず、知り合いにその存在を覚えてもらった。もっとわかりやすくしていただくか、事前に配布していただけなら助かる。また Timetable & Mapに、少なくともワークショップなどの演者とタイトルを記載していただけないと、どこに行ったらいいのかわからず困った。ポスター発表も分野ごとに分かれていない分、要旨・プログラムサイトにつないでしらべるのだが、大文字と小文字が違うだけで引っかけかかってこなかったり、興味のある分野や内容を調べられなかった。せめて、検索だけでなくポスター番号とタイトルだけでもpdfとしてまとめてみられるような仕組みにしてもらえたら助かったと
※	全ての発表演題と要旨をまとめてダウンロードできるファイルが欲しいと思いました。
※	プログラムの内容を把握し、確認することはとても難しかった。詳細なプログラム集を復活させる必要はないと思うが、Timetable & mapをもう少し充実させるべき。発表形式や発表準備に必要な情報や英語案内は電子版にして、むしろ演題名リストのあったプログラム小冊子が欲しい。
※	Timetable & Mapは一度も開けなかった。会場での視認性を上げる事と、プログラムサイトの充実を図ることが解決の道だ
※	プログラム集のPDFをダウンロードできるようにしてほしい。また索引をつけておいてほしい。
※	むしろガイドマップにしかポスターボードの位置の記載がなかったの、見たいポスターを探すのに手間取った
※	印刷版がない事を知らなかった。アプリが使いにくいので、プログラム冊子が欲しい。
※	演題・発表者・参加者の検索システムは精度がいまいちなように感じた
※	紙媒体の冊子類にかかるコストは極力減らし、参加費を安くする方向に還元してもらいたい。紙媒体を希望する場合とそうでない場合で参加費に違いをつければよいと考える。
※	Timetable & Mapからポスターの時間(コアタイムなど)の情報が見つけれず困った。
※	演題タイトル+発表者が書かれた、現行よりも少しだけ詳細なプログラムがあると助かります。
※	冊子版の廃止には当日の利用に際して不満はない。一方で、資料としてのあり方を考えた場合、学会サイトにてアーカイブ化されいつでも閲覧可能なシステムを導入しておくことが併せて必要ではないかと考える。
※	もっと汎用の仕組みを使うなどして学会のオンライン化にかかる費用は圧縮すべき。要旨やプログラムはPDFで十分。
※	オンライン抄録集や小さな冊子にポスター会場の配置図がなく、ポスターやサイエンスピッチ、ポスター会場中の講演会場の場所が全くわからなくて探し回り、会場設置のガイドマップをやっと手に入れ辿り着きました。少し疲れました。
※	Graphical Abstractも文章のAbstractと同じように一括ダウンロードできるようにしてほしい。
※	アプリがあればTimetable & Mapの冊子は無くても不便を感じませんでしたので、希望者のみで良いかと思いました。
※	ワークショップごとのタイムテーブルが見つけにくかった。
※	検索機能がうまく機能しておらず難儀した。せめて番号順や時間帯順にソートして一覧したり多彩な条件でフィルター機能が利用できるようにしてほしい。口頭発表とポスターを同一演者がやっていて同じテーマなら発表番号を共有したりページを行き来できるようにしてほしい。
※	プログラム集冊子(詳細版)は、印刷版は不要だが、webでは閲覧できると便利。チェックしていなかったポスターに会場では出会うのと同様に、全演題をタイトルだけでも見られると、新しい出会いが広がる。
※	会場のネット環境が脆弱であることがあるので、冊子にもう少し情報を載せないと参加者はかなり戸惑ってしまう。例えば、各セッションの全発表者のタイトル、ポスター発表のタイトルと分野分類くらいの情報は必須だと思う。情報が少なすぎて冊子の存在意義自体がなくなっていた(ほとんど使わなかった)。
※	発表者の名前が簡易版のプログラム集にあれば次の発表者がだれかすぐに冊子上で見られるので、ぜひ入れてほしい。
※	Time tableだけの情報ではセッションにおける講演内容が分からず、結局オンラインのプログラムを見ざるを得ず、Timetableよりの有益性に制限を感じた。
※	冊子体作製はお金ももったいない。ただ、それにしては参加費が高かった。
※	環境に配慮してペーパーレスにする動きは大事だと思いました。また、無駄な出費も抑えられると思いました。アプリはあったほうが良いと思います。ASCBなど海外の学会では既に10年前からアプリがあり、起動が早く、検索もしやすかったのととても助かりました。海外の学会のアプリを参考にされたら良いと思います。
※	要旨集をめくる感覚で発表要旨を閲覧できるようなアプリのつくりになっているとよかったのと感じた。
※	どんなものでも冊子は要らないがPDF版は欲しい。
※	むしろ、ガイドマップは不要である。会場で沢山余っていた。廃棄処分はもったいないと感じた。
※	プログラム集冊子については、アプリは不要だが演題と講演者の情報が欲しかった。英語だけでも良い。
※	毎回アクセスするのが面倒なので、アプリがあった方がよい
※	アプリは不要だが、アンドロイドから接続した際に要旨の全文検索がきちんと機能しなかった。要旨PDFは現地でダウンロードするにはサイズが大きすぎるため不便だった。Webサイトのみでよいが、きちんと動作するものを用意してもらいたい
※	全発表演題のタイトル・発表者集は、紙冊子が欲しい。
※	10月に生化学会年會に参加したが、A5版のプログラム集冊子があった。とても便利だった。全てスマホだけにするのは一見性とかに問題がある。
※	アプリは同じもので毎年会場により更新(改善)できるようなシステムにできませんか? 毎年アプリの仕様が変わるのも費用も嵩むでしょうし、今回のwebベースのものはこなれていなくて、使いにくかったです。

質問13. 本年会では昨年に続き、一般演題のタイトル情報まで入った詳細な(A5サイズ・厚さ1~2cmの)年会プログラム集冊子や年会アプリは作成しませんでした。また、会員の皆様にはプログラム集冊子に同封発送していた学会会報(年3回発行)の11月号も印刷版作成を見送っています。これらについてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	Q12に書いた通り、演題タイトルだけは冊子体があった方が便利です。
※	要旨、プログラムサイトが使いやすければアプリがなくてもよい。
※	不参加でした。
※	アプリがあった方がよい Timetable & Mapがよくない
※	アプリはあった方が良く思いましたが、費用対効果に寄りますね。(費用が分かっていないので判断できませんでした。)
※	現地での確認や出張申請のため、タイトルだけのプログラム集で良いので、有ったほうが良かったかと思う。タイムテーブルも文字数の制限か、端折りすぎてタイムテーブル上では意味のわからないワークショップも多かった。
※	今回のようなTimeTable & Mapがあると便利
※	数年前にやっていたアプリを復活させて欲しい。とても便利。あれば、冊子はいらぬ。
※	アプリからWS検索などがちょっとやりにくいように思った。改善されれば、詳細版プログラムはいらぬと思う。
※	これまでのアプリが非常に便利でした。プログラムサイトはログインする手間があり、ブラウザなので操作性も今一つです。アプリの復活を強く希望します。
※	紙媒体に戻ることはあり得ない。
※	生化学会のプログラム集程度の大きさ、厚さ(+著者索引)の冊子があるといいと思いました。
※	紙媒体はなんだかんだ言ってやはり視認性が良いのです。これを廃止するのであれば、それを凌駕する内容でアプリを充実させてもらいたいです。
※	冊子やアプリがないと要旨を読まないで参加することがおこったので、簡易に読めるような工夫は必要だとおもう。
※	不参加だったため回答できない
※	演題全体を一覧でき、人名・キーワードを索引で引ける小冊子がある方が便利と思う
※	大判マップはデジタル版も欲しかった。
※	冊子はA4にして薄くしたものを作って欲しい。
※	WSはオーガナイザーしか名前が表に出ておらず、演者の情報が見つけづかったです。

質問14. 年会・学会のその他の講演に関する取り組みについて、良かったと思うものを選んでください <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンライン参加だったため回答不可
※	早朝セッションは今回初日の1題しかなかった。複数題が並行して走っても良かったのでは。
※	オンラインで学会に参加できることは、大変ありがたいです。
※	プレナリーレクチャーは参加しづらい時間帯だった。
※	メッセの巨大さを生かした設定は良かったです。酒類の提供があって昼間から呑んでいました自分は気にしない方です。メッセの会場にはもっと食事を提供出来る場所が合っても良い(両翼に配置)。コーヒーの提供が早くに終わり午後がつかった。ASCBやEMBOとの連携プログラム2は出席していない。このような巨大会社は研究者のお祭りで会員が求めるものは多様だが、特定の団体との交流を図るのは他の機会でも良いと感じている。
※	各種オブジェや秘密展示など、細かい要素の心配り
※	展示会場内に特設講演会場があるのは斬新であり、会議場を借りるよりも経費を抑制できてよいと思う。ただ、(会場によると思われるが)発表者の演題とスピーカーの位置が近く、話しづらかった。
※	ランチタイムのMBSJ-ASCB-EMBO Joint Workshop/MBSJ Special Programに参加したが、想像していたより表面的な(HPIに書いてあるような)話ばかりで残念であった。例えば、fellowshipやgrant審査の過程が、日本とはどのように異なるかなど、踏み込んだ話が聞きたかった。
※	席に余裕があり、いろいろなセッションに気兼ねなく入れる環境が良かった。
※	展示会場内の講演会場は少し寒かったです。なんらかの対策が必要だと思いました。
※	毎度のことながら、高校生発表は片隅に追いやられている印象がぬぐえず学会での扱いに中途半端さを感じる。今年度はサイエンスピッチが設けられており、どうせならこちらでもとりあげてもよかったのではないかな？
※	季節柄仕方ないと存じますが、特設講演会場はとても寒く、耐えられないヒトもいるのでは、と思いました。
※	展示会場内に特設講演会場のせいで、ポスターの並びが分かりにくく、ポスターを見るのが大変だった。
※	特設会場は良かったが(休憩場所にもなった)、入り口で音楽を流しているブースがあり、周囲のポスター発表者には迷惑でないかなと前を通った際に思った(ポスターセッション開始以降も音楽が流れていたかは未確認)。
※	特別企画(申請書のやつ)。
※	展示会場内の講演会場は、周りの雑音があるのでやめた方がいい。
※	領域計画書の閲覧コーナー。
※	女性や若手が主体となって座長になる取組は良いと感じた
※	高校生発表は、発表場所と時間帯を上手くミックスさせてあげないと、参加者も気づきにくいし、高校生も参加しにくいのではないかなと思う。高校生のことを考えると、土日の時間が良い？
※	展示会場内に講演会場があるのは良くない(外部の音が聞こえた)
※	もりだくさんすぎて、学会本体の姿が見えにくくなった。
※	不参加でした。
※	展示会場内でmeet the hero's/heroinesとかピッチが聴けたのは良かったです。会場が分かると正直な話、移動が面倒になるので。
※	高校生発表が時間と場所の関係で高校生同士のみの交流か、大人が上から目線でアドバイスをするだけだったのは、企画が良かっただけに残念。逆に高校生に研究者のポスター等で質問してもらったりしたほうが良かったのでは？
※	プレナリーは朝一のオンラインではなく、対面で午後とかにやってほしかった。
※	展示会場内に特設講演会場があるレイアウトは最悪だと思いました。外部の音がザワザワうるさかったり、逆に口頭発表のある時間帯はポスター会場が暗くなったり、何かいまいちでした。会場探しも面倒だし、今後はあのような形ではなく、口頭発表会場はちゃんとした会議室にすべきでしょう。ランチセミナー時に隣のクラシックの演奏の音が大きくなる時があり、セミナーに支障が出ました。。。
※	幕張会場は十分に広く、感染防止はもちろん、混雑防止の点でも高く評価できる。分子生物学会の会場として今後も使用してはどうか。
※	2がとてもよかった。講演会場とポスター会場が完全に分かれているとポスター会場に行く気がしなくなるが、今回のような入れ子スタイルだと、講演を聞くためにポスター、展示会場にも行くのでいいとおもう。
※	・展示会場・ポスターセッション・公演会場が同じフロアにあるのは斬新ですばらしかった。半オープンなスペースとなっていることで、途中入場、立ち聞きなどもしやすかった。サイエンスピッチも含め、交流しやすい工夫が随所で感じられた。
※	高校生のポスターは皆が認知しやすい場所にあってもよかったのではないのでしょうか。
※	不参加だったため回答できない
※	高校生ポスターの参加者は、プロの研究者と話ができることにある程度期待しているのではと予想するが、実際に足を運ぶ学会員は多くない。もっと積極的に参加を促す仕組みを整えるべきであろう。最近優秀な博士号取得者が研究職には就けず、高校教員になって熱心な指導を行い、極めて優秀なポスター発表を行っている例が多数ある。現役の研究者にも良い刺激になると思う。
※	展示会場内に特設講演会場があるレイアウトは良くない(うるさい)ポスター会場の電灯をつけないと、時間になったら消すとかもあり得ない。
※	大型予算の申請書の展示
※	展示場を仕切ったWSは集中しづらく感じました。

質問15. 企業展示会等でよかったと思うものを選んでください<複数回答可>(要望・その他)

回答者番号	要望・その他記述
※	オンライン参加だったため回答不可
※	参加しなかったけど、たくさん選択肢があるのは嬉しい
※	デジタルポイントラリー、QRコードを出していない企業さんもあるし、QRをすきゅんさせてくださいというのも恥ずかしく、実際訪問した企業のごく1部しかポイントを貯めることができなかった。また、ブラウザのログインがうまくいかずポイントを貯めることができない場合もあった。アプリだったらもうちょっと上手くいったのだろうか？スタンプ式とのメリット・デメリットが企業展示が発表の場に隣接していて人通りが絶えないのは企業の方にとっても良かったと聞いている。デジタルポイントは集めたが交換する暇がなかったのが残念である。
※	いままでどおりのブース形式で、十分楽しめました。
※	バイオリンコンサートは自分には良かった。ただし、時間帯が悪く、うるさかったと思う。実際、ランチョンセミナーが聞こえなかった。
※	企業展示のデジタルポイントラリーはいいと思うが、各企業に提示した覚えのないメールアドレスに宣伝のメールが送られる旨は知らされていなかった。誠に不快であるので事前に周知すべきと感じる。
※	出展者実演セミナーの会場が騒々しく、あまり有効なプレゼンができていなかった。ポスター発表時間帯は避けて頂きた
※	企業展示が少なかった。
※	飲食販売の場所が非常に不便なところになっていてわかりにくく、あまり利用されておらず残念に思いました。展示会場の中央の便利なところに配置すれば、人が集まって企業展示を見る人も増えるのではないかと思います。
※	デジタルポイントラリーはよくわからなかったし、現地では参加しづらい。
※	デジタルポイントラリーせっかくポイント貯めたのに抽選早期終了でふざけるなと思った
※	企業ブースをまじめに聞いて3日30ポイント集めたのに景品終了してて残念だった。話を聞かずQRコードの読み取りだけやって景品もらう人が得するこの企画は見直した方がよいのではないか。
※	ポイントラリーの景品が無くなっていて残念だった。早めの告知等、工夫があるとよかった。ポイントラリーが企業側の負担になってはいないだろうか。
※	デジタルポイントラリーは必要点数が高すぎて意味が無い。
※	不参加だったため回答できない
※	企業側のメリットを考えると、できる限り気軽に企業ブースに立ち寄れる仕組みを作ることは必要。協賛を得られないと学会運営が立ち行かなくなるので。学会の名札に個人情報QRコードかバーコードをつけ、読み取りだけで情報を残せる仕組みにしてもいいのではないか。
※	詰め込みすぎで、参加意欲が挫かれる。

質問16. 年会の講演以外に関する取り組みについて、良かったと思うものを選んでください<複数回答可>
(その他)

回答者番号	その他記述
※	ネームカードは少し大きすぎた気がします。その割に文字は小さかったので、カードはコンパクトに、文字を大きくするのが良いと思います。
※	参加賞は大きすぎて邪魔だった。せめて長さを半分にして欲しい。椅子に座った時に自分の膝につかえて湾曲してしまっ
※	参加証は大きすぎて、ひもの長さも調節できず不便。
※	オンライン参加だったため回答不可
※	参加章が大きいのは意味がなかった。必要な情報は氏名と所属だけであって、その大きさは変わっていないので。大きいと立っているときは気にならないが、座っているときや何か作業をしているときは邪魔になったし、最終的には折れ曲がったりしていた。ストラップのデザインや色は気に入ったが、紙の参加章だったので、接続部が切れやすかった。
※	参加章が大きすぎて邪魔だった。
※	参加章は名前だけを大きく印刷すればいいのではないかな？ 出っ張った腹でひっくり返って、不便だった。邪魔だった。
※	参加賞が大きすぎて邪魔だった(男性はトイレの際邪魔だと思う)。折れ曲がったり模すので、従来のものの方がいいように思う。生演奏や利酒、テーマソングは不要。
※	NBRP
※	大きな参加章がとてもよかったです。これからの学会スタンダードになるといいなと思います。
※	生演奏は音が気になる人もいて同じ会場で行うのはやや問題を感じた。物産展良かったです。
※	参加章が大きすぎて非常に邪魔だった。また丈夫のクリップどめの部分がすぐに破けて不便だった。小さくてよいので、以前のようなケース付きストラップに戻して欲しい。参加章のケースがあると名刺を受け取ったときにそこに保管できて非常
※	生演奏は発表時間は邪魔。聞き取りにくくなる。
※	音楽は不要だと思った。
※	生演奏は無い方がよい。発表の邪魔だった。音楽に理解のあるふりするのはいかかって失礼。
※	テーマソングは不要だと思う。大きなサイズの参加章は悪くはないが、出張報告の際に提出する必要があり、紙だと3日間で結構劣化した。プラケースに入っている方が安心。バイオリン・ピアノは会場内だと他の発表にとって弊害がある、違う場所を設けるなら良いと思う。
※	参加章は大きすぎたかと思います。
※	参加証が大きすぎて邪魔です。
※	マスクで顔の識別がやや難しくなる中、参加証が大きいのはよかったが、名前部分がより大きいとうれしい
※	参加章は大きすぎたと思う。ストラップとの接続部が破れそうだった。開催地とのタイアップはいい企画だと思う。
※	ロックバンドは肝入りの規格なのだろうが、正直騒音としか思えなかった。学問と違う方向で気張りすぎるのも、次の開催責任者にハードルを更に上げることになるのではと懸念する。
※	参加証は通常のサイズで良いと感じた。文字を大きくするのは良いが、サイズを大きくするメリットは感じなかった。
※	オンサイトでの参加でなかったため、コメントを控えます。
※	参加章が大き過ぎた
※	参加章はさすがに大きすぎたと思った
※	参加証は少し大きすぎたと思います。すぐに折り目がついてクシャクシャになってしまいました。
※	参加章は大きすぎて膝の上のノートやパソコンに引っかかりました。デカすぎです。楽しかったけれど。
※	Meet my Hero/Heroineは所属先の学部生に好評だった。
※	参加証のサイズは、大きすぎて邪魔で不便だったと思います。逆襲の助教のリハーサルも本番も、音量が大きすぎて、参加者同士の議論に支障があった(ポスターが演奏会場の近くだったためかもしれませんが、)。学会本来の目的を果たそうとしている参加者の邪魔になるようなら(音楽は必須ではないものなので)やめるべきだと思う。
※	参加章のサイズが大きかったのはつけている側としては邪魔になってしまい、また紙なので留めの部分がすぐに破れてしまうなどのトラブルもありました。小型でも良いと思いますので、邪魔になつたり破損したりしにくいデザインが良いと思います
※	参加賞のサイズが大きいために、名前がはっきりと視認できたのはよかった。ただ、あちこちに引っかかりやすく、その点が残念だった。名前の文字を大きくすればよいのではないかと思います。
※	参加章をつけていても見えないことも多かったため、今回の大きい参加章は相手の情報が確認しやすく良かった申請書ギャラリー一気ついていかなかったためで残念Meet my Hero/Heroine は理不尽なバワハラ・アカハラで有名な人も居て、人選が疑問だった誰の目線を選んだ「憧れの先生」なんだろう
※	生演奏はほんと場所とタイミングさえもっと考慮してもらえたらもっと良かったらうに、場所もタイミングも最悪だったので悪いイメージしか残らなかった。せっかくいい演奏してたのにもったいない。参加証も大きすぎて邪魔だった。
※	大きなサイズの参加章は、相手の所属の確認の際には良かったが、長さが長すぎた。座った際に引っかかり、ストラップを付ける部分が破損したり、下部が折れ曲がったりした。またトイレで用を足す際に、小便が掛からないか気を使った。
※	大型名刺は良い。文字をもっと大きければ、なおよし。
※	参加賞が大きかったのは良いが、神でできていてケースがなかったので紐との接続部が干切れた。改善してほしい。
※	参加章は邪魔で破れやすかった。
※	大きな参加章はよいが、破れやすさへの配慮があるとなおよいと思う。
※	参加章は正直言って首からかけるとかなり邪魔でストレスを感じた。特にワークショップなどで聴講中は邪魔なのではずして鞆にしまっていた。
※	展示会場での口頭発表の際にバイオリン演奏が聞こえてきて、発表を聞く妨げになりました。
※	生演奏は時間帯を選んでほしい。ラン チョンセミナーの時にノイズだった。
※	参加証が大きすぎて着用しにくい。参加証がボロボロになった。名刺サイズでよい。参加証を大きくするのであれば、名前の印刷を大きくするべき。
※	参加章が大きいのは良いが、講演会場間の移動と会場内での着席等のため荷物を担いだり、降ろしたりを頻繁にする中、紐と参加章を繋げている部分が破け、紐と参加章を繋げるのが難しくなった。紐と参加章を繋げる部分は、破けにくくする工夫が必要のように思う。
※	地元物産展があることは会場に行くと知りました。MBSJ2022グッズは受付横で販売されていたらしいのですが、気づかず、2日目の帰宅後に大会twitterで知りました。3日目はオンラインだったためグッズを買えませんでした。物産展とグッズ販売があることも大会ホームページでお知らせください。またグッズは展示会場にブースを設けてお願いします。グッズ欲しかったです。今からでも買えますか？

質問16. 年会の講演以外に関する取り組みについて、良かったと思うものを選んでください<複数回答可>
(その他)

回答者番号	その他記述
※	参加証は小さいほうが良いと思いました。
※	参加証が大きいことは見やすく便利だったが、トイレで手を洗う時に垂れ下がって参加証が濡れたので、長さはもう少し短くていいかも。
※	例年より大きなサイズの参加章は邪魔でしかなかった。ストラップにつなぐ部分が脆くて何回も受付で修理してもらわなければならなかった。
※	大きい参加章は2度とないようにしてもらいたい。
※	ポイントラリーを用いて展示場の企業ブースを回るのを促しているのはスポンサーを大事に考えているのが見えて感心した。時間外でポスター会場の電気を落とすのは大変よくない。
※	生演奏について、個人的には音楽演奏は大変好ましいと思っているが、今回シンポジウムの発表と演奏時間が重なる場面があった。特に、初日に会場の真後ろで生演奏が始まってしまった場面に出くわしたが閉口するしかなかった。そのような発表を妨げる演奏になってしまうのなら断じてやめるべきだと思う。
※	参加章は元に戻して欲しい。座ったときに折れたりして邪魔だった。また、3日目にやぶれてしまって不便だった。バイオリン・ピアノ演奏が邪魔で一部の発表がきこえなかった。せつかくの学会なので発表を重視して欲しい。
※	シンポジウムやワークショップ中に生演奏が始まるがあった。発表者・参加者にとって妨げになるので、時間の配慮が必要と感じた。
※	バイオリン・ピアノ、逆襲の助教、全く金の無駄
※	テーマソングは不要。チープな印象しかない。また、Meet my Hero/Heroineは素晴らしい趣旨だとは思いますが、「憧れの先生」を運営が決められているのではなく、学生会員にアンケートをとって招待したらもっといい企画だと思う。
※	お酒は無い方がいいのではと感じた。感染対策的な意味でもよくない。パンケット的な企画が晚にあり、そこで無料でお酒が振る舞われる！とかなら大変盛り上がると思うが
※	参加証の名前表記が大きいのと、裏返らないストラップの仕様はいいと思います。ケースがないのもエコでよいかと。ただあのサイズは座ってPCやノートをとる際に足にじゃまになり、3日間でだいぶボロボロになります。下の方の広告がなければちょうどよいサイズだったかも。
※	参加証がでかいと着座時や腕組み時に折れ曲がったりして不恰好になってしまった。
※	公式テーマソング「逆襲の助教」は良くない。誰が選曲したのか？一部の方の自己満足であるように思える。もう少し広い世代に愛されるような曲が良い。そもそもテーマソングとか要らないのでは？？
※	このような講演以外のものが必要なのか、疑問を感じます。
※	フードコーナーがよかったです。酒の試飲や、ソフトクリームを食べました。
※	学会に参加した証拠の写真が取れる巨大看板は良かったと思いました。
※	大きなサイズの参加章はとても邪魔で破ってしまいました。来年度以降は普通サイズを強く希望します。
※	良くなかったのであえて書かせていただきます。生演奏、フォトスポットなど要りますか？ツイッターで話題になるけど、洒落はこういうところで出さないで、もっと大会運営上で出してほしい。
※	参加証は大きすぎて不便だった。
※	参加章は大きすぎた。QRコードがついていたが、どうせならそれで自分の名前と所属と発表などの情報が読み取れるようになっていたら良かった。
※	逆襲の助教はパーマメントの著名な研究者が助教の立場を揶揄するような印象を受け、本当に頑張っているが有名ラポ出身等ではなくなかなか機会に恵まれない若手研究者には笑えないと思われる。もしメディア等で本格的に取り上げられたいら、大きな問題になると思う。
※	幕張は観光地ではないので、お土産を買うのが結構大変です。学会会場にお土産コーナーがあるのは便利でした。宅配サービスもやったらいいかと思ひます。たくさんのお土産を持ち帰るのは不便です。
※	参加を証明するフォトスポット
※	不参加でした。
※	紙の参加章は良くない
※	参加賞は大きい割に名前等が見えにくく(特に手書きの人)、風で煽られるなどして3日目には破れてしまった。もっと名前が見えやすくして、破れないように補強するなどしてほしい。大きさも半分程度でよい。
※	例年より大きなサイズの参加章が特に良かったという訳ではないですが、プラスチックケース要らずなのは作業的に楽でゴミも少なくなるので新鮮でした。
※	Meet my Hero/Heroine はやめた方がよい。参加者がそれぞれが自分のヒーロー/ヒロインを探さなくてどうしますか？また、(今回はいいでしょうが)Meet my Hero/Heroine に選ばれて、変な勘違いを起こす研究者が出てこないとも限りません。過去にありましたが、学会企画の出版物に取り上げられていたけど、あとで研究不正やっていたことが判明したとか。年会のヒーロー/ヒロインというなら、年会長はじめ組織委員だけでいいでしょう。
※	フードトラックが来ていたのは助かりました。
※	展示会場での生演奏には、かつて行われたこともある学会員によるジャズ演奏を是非復活させてもらいたいです。千葉のお酒と物産展はお土産を買う手間が省けて大変助かりました。サイズの大きな参加証は、視認性は良かったですが、その分邪魔で、最終日までにヨレヨレになってしまいました。最適解を探すのは難しいですが、試みとしては良かったかもしれま
※	プロGRESSIVEロック好きとして敢えて(愛も持って)申しますと、Negative selectionはとても興味があるのですが、やはり学会の雰囲気にはそぐわないと感じました。やりたいことは理解できるのですが、演奏とステージング(盛り上げ方)に考慮の余地ありと思ひます。偉そうに申し訳ありません。
※	音楽ステージがあったのが、新しくよかったです。助教や若手による一般ステージパフォーマンスの募集もやって欲しい
※	大きなサイズの参加証は邪魔だった。名前の文字だけ大きくすればよかったと思う。Meet my Hero/Heroineはポスターの時間と同時刻開催は、人が集まらないのが目に見えていた。
※	不参加だったため回答できない
※	例年より大きなサイズの参加章はかさばり、メモとり、腕組、上着の着脱などでことごとく邪魔に感じた。やめてほしい。テーマソングは、コロナ禍の敵と扱われてきたバンド生演奏に一石を投じる勇気あるアクションと感じた一方、企画した先生方の自己満足と感じて、正直しんどいと感じた。
※	参加証はでかすぎて、やぶれてしまいました。3日間はもたない。

質問16. 年会の講演以外に関する取り組みについて、良かったと思うものを選んでください<複数回答可>
(その他)

回答者 番号	その他記述
※	どうかと思う企画もあったが、SNSでかなり取り上げられたのは成功だと思う。活きがいい、楽しそうな学会、という演出につながる企画はどんどん打ち出すと良いと思う。来年の運営が大変そうですが。
※	ストラップの現地配布は良かったと思う。大きなサイズの名札も見やすく良かったが。背が低い人には扱いが難しかった面もあったようだ。特に女性は名前の位置が低くなりすぎたり、名札の下端が痛んでいたり、何かに引っかけてストラップの取り付け部分がちぎれている知人を何人か見た。
※	Meet my Hero / Heroine. すごくよかった。時間を半分にして、学生と学生以外の若手の時間をわけて開催して欲しかった。ただ案内に直前まで気づかず見逃すところだった。参加証は破れそうで心配だった。グッズが素敵で、売り切れが残念だった。チーバくんにはテンションが上がった。
※	参加賞がでかくて邪魔だった。必要ない情報が載っているスペースは無駄。
※	生演奏そのものはいいですけど、さすがにWSの背景で聞こえるのはやりすぎかと思いました。

質問17-5. 年会参加登録費についてお聞きします(MBSJ2022の事前参加登録費:正会員15,000円、学生会員:3,000円、非会員[一般演題投稿なし]20,000円、[あり]30,000円、学部学生:無料) <複数回答可>
(年会参加登録費は誰が負担していますか(本人の私費・所属機関の運営費・外部から獲得した研究費・詳細は不明だが所属の研究室負担で参加できる等))

回答者番号	年会参加登録費は誰が負担していますか 記述
※	外部から獲得した研究費
※	科研費でも請求できるが、知識は自分の物なので自己投資と考えて私費
※	所属機関の運営費
※	所属機関の運営費
※	外部獲得資金から出費で参加した。
※	所属期間の運営費
※	参加者自身の科研費
※	ありがたいことに所属機関から参加費を出していただけるので、この金額でも参加できます。もし、私費ならば、躊躇してしまう金額です。
※	私費です。もう少し安くしてほしいです。
※	外部から獲得した研究費
※	本人の科研費
※	研究費
※	所属機関
※	参加登録費は研究費から出したので許容範囲である。しかし高かったという声も聞いている。
※	本人の獲得した科研費
※	科研費
※	所属機関の運営費
※	本人の研究費
※	研究費
※	科研費
※	私費
※	本人の科研費で支払い。
※	外部から獲得した研究費
※	年会費は運営費、参加費は外部から獲得した研究費
※	外部から獲得した研究費
※	自ら獲得した研究費
※	大学から支払われる個人研究費(いわゆる運営費)で負担している。
※	自身で外部から獲得した研究費
※	所属機関の運営費
※	外部から獲得した研究費
※	外部から獲得した研究費
※	研究費
※	外部から獲得した研究費
※	所属機関の運営費
※	私費
※	外部から獲得した研究費
※	本人の私費
※	科研費
※	本人の私費
※	外部から獲得した研究費
※	外部から獲得した研究費
※	所属機関の運営費
※	外部から獲得した研究費
※	外部から獲得した関連研究費で参加登録しました。
※	本人の私費
※	今回は自費でした。
※	本人の私費
※	外部から獲得した研究費
※	所属機関の運営費
※	科研費
※	大学の学会費
※	所属機関が負担
※	外部から獲得した研究費
※	獲得した科研費
※	外部から獲得した研究費
※	本人の私費これだけ有益な情報が得られるのだから、毎回発表してもしなくても自腹です。研究費を使うのは勿体無いですし、そんな余裕はありません。
※	本人の私費
※	所属機関の運営費
※	所属機関の運営費
※	研究費で負担しています。
※	参加登録費は外部獲得研究費で支払った。
※	参加費は交通費も含め研究室で負担しています。

質問17-5. 年会参加登録費についてお聞きします(MBSJ2022の事前参加登録費:正会員15,000円、学生会員:3,000円、非会員[一般演題投稿なし]20,000円、[あり]30,000円、学部学生:無料) <複数回答可>
(年会参加登録費は誰が負担していますか(本人の私費・所属機関の運営費・外部から獲得した研究費・詳細は不明だが所属の研究室負担で参加できる等))

回答者番号	年会参加登録費は誰が負担していますか 記述
※	本人の私費
※	科研費
※	外部から獲得した研究費
※	科研費
※	外部資金
※	外部からの研究費。
※	外部から獲得した研究費
※	その年によって色々です。
※	外部から獲得した研究費
※	本人の科研費
※	所属ラボの運営費
※	所属機関の運営費・外部から獲得した研究費
※	外部から獲得した研究費
※	外部から獲得した研究費
※	運営費
※	外部から獲得した研究費
※	外部から獲得した研究費
※	本人が獲得した外部資金
※	本人の外部から獲得した研究費
※	自分が獲得した科研費
※	所属機関の運営費
※	科研費
※	年会参加登録費は職場の予算で出ていますが、10,000円くらいにはならないのでしょうか。
※	本人の外部から獲得した研究費
※	科研費
※	所属機関の運営費。今回の内容で正会員15000円は高いです。Q12-13に書いたように、冊子体の配付や、アプリの準備はしてほしいです。
※	詳細は不明だが所属の研究室負担で参加できる等
※	旅費は研究費で負担している。参加登録費も研究費から負担可能だが、私費建て替えの手続きが煩雑なため、私費で負担している。
※	外部から獲得した研究費
※	公費
※	外部研究費参加費が高い
※	大学の出張補助を利用
※	研究費
※	大学からの個人研究費(校費)から支出。
※	年会費は私費。参加費は科研費が取れていれば科研費。科研費がない年は参加できない可能性がある。以前に比べて少し高いのではないかと感じた。
※	研究室が負担している。
※	外部研究費
※	所属機関からの研究費
※	私費
※	研究費から支出
※	所属機関の運営費
※	外部から獲得した研究費
※	所属機関の運営費および外部資金
※	研究費です。今年度はありましたが、次年度は。。。
※	私費
※	本人の研究費
※	所属機関の運営費
※	参加登録費は研究費から捻出していますが、学会出張にかかる出費全般としてできるだけ抑えたいというのが本音です。プラスちばキャンペーンを使ったのは有り難かったです。
※	外部研究費
※	私費
※	外部から獲得した研究費
※	研究費
※	外部から獲得した研究費
※	科研費で賄っております。15000円は、かなりブルジョアな感じてました。若者向けだったのかもしれませんが、大きな看板、フोटスポット、、など経費削減して、参加費安くしてほしい、、です。
※	外部研究費から支出
※	研究費
※	外部から獲得した研究費
※	本人の私費
※	参加登録費が高過ぎます。

質問17-5. 年会参加登録費についてお聞きします(MBSJ2022の事前参加登録費:正会員15,000円、学生会員:3,000円、非会員[一般演題投稿なし]20,000円、[あり]30,000円、学部学生:無料) <複数回答可>
 (年会参加登録費は誰が負担していますか(本人の私費・所属機関の運営費・外部から獲得した研究費・詳細は不明だが所属の研究室負担で参加できる等))

回答者 番号	年会参加登録費は誰が負担していますか 記述
※	所属機関の運営費
※	研究費(所属機関の運営費・外部から獲得した研究費)
※	非会員WS 発表者なので支払っていない

質問17-6. 年会参加登録費についてお聞きします(MBSJ2022の事前参加登録費:正会員15,000円、学生会員:3,000円、非会員[一般演題投稿なし]20,000円、[あり]30,000円、学部学生:無料) <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	参加費を正会員10,000円で運用できる内容で年会の内容をご検討くださると助かります。ここ数年で正会員の参加費がだいぶ高騰したように感じています。
※	学生の会費を安くしている分、仕方ないかもしれないが、一万円程度だと助かる印象です。
※	オンラインで学会に参加できることは、様々な面で助かりますので、参加費が高額になってしまうことは、仕方がないと感じています。また、運営の方々には感謝申し上げます。
※	プラスちばキャンペーンを知らなかった。知り合いは参加が高くなったことを話題にしていた。
※	ハイブリッドでの開催は費用がかさむのは理解できるが、参加費は高いように思う(予算的には黒字だと伺いました)。無駄なイベント・出し物をやめれば、参加費は抑えられたと思う。
※	例年に比べて正会員でも高いと感じた。ハイブリッドなので仕方がないのもあると思うが、きちんと高い理由を知らせてもらえるなら満足。
※	一般の参加費が高いです。
※	会場がかつてないほど良かった。適度に田舎(宿泊費も学生が選択しやすい安いところがある)、開催地の協力、駅から近い、ほどよく飲食店もある。休憩場所に困らない。広すぎないので疲れない。また、年に様々な新しい工夫が散りばめられていて素晴らしかった。25年にわたって分生に参加していますが、一番良かったと言えるほどの年会でした。
※	正会員も立場や年代がいろいろであり、一律の金額としては高いのではないのでしょうか。運営上でご努力を充分された結果とは思いますが、どこか節約できる場所はないかと探しつつ、これ以上の増額を抑えることを願います。
※	年会参加登録費が高すぎる。大学院生は興味はあっても金額が高くて参加できなかったようだ。
※	参加費は研究費から支出可能であるが、会期中1日程度しか参加できなかったのも、それにしては参加費が高いと感じたため、参加を見送った。一日参加費などがあると参加しやすいと思う。
※	年会参加費や学会費の安さが、年会の活きの良さとともに本会の特徴だと思っています。来年度以降、再度見直しを希望いたします。
※	率直に言って高い。その費用が、講演を邪魔した生演奏の演者などにわたっているのかと思うと、腹が立つ。生演奏を呼ぶ金があるなら、しっかりとワークショップの数だけ会場を確保してほしい。ポスター会場でのあのような形式のワークショップなら、もう参加したくない。
※	高すぎます。異様です。大人は五千元~七千元でも良くないですか？
※	学生会員ではない大学院生の参加費用(発表なし)を安くしてほしいです
※	高い
※	高いのであれば、それなりに充実させるべき。いつもと変わらなかった。ハイブリッドだから高いのか？
※	私費だったら参加は見送ったと思う
※	10,000円くらいだと助かります。
※	例年通りの内容に戻すことで年会費をもとに戻せるなら戻して欲しい。
※	web上でのコミュニケーションがもっと活発になると、その後のフォローも出来て、さらに良いですね。
※	15000円はシンプルに高いと感じた。
※	明らかに他の学会よりも高い。高すぎる。昔は他の学会よりも安かったのに。非常に不満。運営の努力と工夫が足りないのでは？
※	事前登録を忘れて20,000円はたかすぎです。
※	「プラスちばキャンペーン」などを使うのはコンプライアンス的にどうなのかと個人的に思ったので私は使わなかった。
※	正会員の参加費について、許容できないことはないが、ここまで高くないような工夫をしてほしかった。
※	久しぶりに分子生物学会に参加し、医学系学会との違いが新鮮だった。
※	金額に関して:正会員が高すぎる。はたらいっているからといって、学生よりお金に余裕があるとは限らない。
※	生化学会のように、学生会員費用をタダにしてはどうでしょうか。
※	開催期間内に発表をみるのが難しい。オンデマンド配信をして頂きたいです。
※	一般会員の参加費値上げ以外の策はなかったと思います。
※	演題登録がない場合参加費は所属機関で負担されない。今後もハイブリッド開催を希望するが年会費・学会参加費の負担は軽減されるよう検討してほしい。(オンラインのみ参加の場合を別設定にするなど)
※	正会員の参加費が高いと感じた。せめて1万円までに納めてくれないだろうか。若者を安い費用に設定するのは賛成。クーポン類は、費用の出所によって使用が推奨されていないことからメリットを感じなかった。
※	学部学生が無料参加登録でき、現地に行かなくてもオンライン講演を視聴できるのは、本格的な研究を知ってもらう点で非常に良かった。今後もぜひ続けてもらいたい。
※	大きな学会であることに意味があるので仕方はないが、並列するシンポジウムやワークショップが多く、聞けない場合が多い。これまでの値段なら仕方ないと思えたが、値上がりするなら会期を延ばすことを議論しても良いと思った。多様な試みやポスターもその日に回り切れないので未消化。現地では研究打ち合わせや同窓会が行われ、隙間ないイベントをこなすことよりも意味を持つことがある。
※	いっそのこと、大学院生も含めて学生は全員参加費無料にしていかがでしょうか。参加費を支払うのは、給与取得者の
※	動画配信のクオリティが高く(Twitterでも書かれていた)、この金額のおかげなら必要経費だと感じた。
※	参加費を大幅に上げた理由の説明が年会WEBページで説明されていないのは不満。事後の会計報告を年会WEBサイトに載せるべき。参加者全員が潤沢な研究資金を持っているわけではない。
※	英国発生生物学会の個人年会費が20ポンド(3,200円)であることを考えるとMBSJ年会参加登録費は高額と言わざるを得ない。正会員で10,000円以内、学生会員で2,000円以内が望ましい。

質問18. 分子生物学会の年会では毎年、公式旅行代理店による宿泊予約受付や、年会託児室の設置(設置費用:年会負担、利用料:一部利用者負担)を行っています。それらの利用状況などについてお聞きします
 <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	宿泊サイトでとったほうが安いのでそういったサイトより安くできるのであればメリットがあります。
※	宿泊予約は各自がネット予約で良いのではないかと。託児料金については料金設定と学会負担金の報告を聞かないと判断出来ないが、ある程度は利用者負担にしないと世や君もキャンセルなどが相次いで運営に支障を来すのではないかと。
※	託児所の男児のトイレに付きそう保育士の方が女性のときが、男性トイレの入り口で待たねばならず、保育士の方もトイレを使用する男性もお互い気まずかったので、トイレの中まで付き添えるように男性の保育士をもう少し増やしても良いと思
※	現在育児中のものです。託児もオンラインも残してもらえたら最高に嬉しいです。もしどちらかということであれば、オンラインの継続を希望します。
※	自分自身で予約した
※	9と10はどっちとも言えない。オンラインのほうが楽なこともあるが、交流を重視するならばオンサイトを選択したいと思うため、その時の優先順位に依存する。ただし、オンラインでは、遅い時間のイベント(ワークショップ、交流)であれば、保育園の時間を過ぎるので、参加が難しくなる。
※	同伴家族も入場料を払えば入場できるようにしてほしい。
※	楽天トラベルを利用
※	東京の機関に所属をしていると出張として宿泊費用が出せない幕張だったので毎日日帰りでした。とてもつらかった。
※	幕張は神奈川からはかなり時間がかかるが日帰り圏と見なされるため、宿泊費もでない。それも参加を見送った理由。
※	コロナ禍でハイブリッドまたはオンラインの学会が増えたことは、子育て世代の研究者には非常にプラスで、今まで現地参加が難しい理由で参加できていなかった研究者(特に女性研究者)が可視化されてくるようになったと感じる。一方、対面での参加に越したことはないで、託児室の設置は今後も継続支援をお願いしたい。
※	オンラインがあるからといって託児室をなくすというのは、子供連れの人間を現地の議論から締め出すように感じる。「子供連れの人間でも参加してよいのだ」という心理的効果のためにも託児室の設置は意義があると思う。一方で、特に子供の状況は思い通りにならない(急病などよくある)ので、オンライン・オンデマンドもあるとありがたい。どちらか片方だけあればいいというものではないと思う。
※	どれも利用していません。
※	小さいお子さんを連れて参加者が目についた
※	遠方在住で子育て・介護している方からすればオンラインで配信されるのが最もありがたいであろうと思います。
※	年会運営の会計による。託児関連があまりにも運営費を圧迫するようなら負担額を上げざるを得ないと思う。今後もハイブリッド開催を行うのであれば、育児中の参加者にはオンライン参加を勧める。
※	公式旅行代理店で予約するよりも、自分で宿泊予約サイトで予約した方が圧倒的に安いことを知っていますか?何のために公式旅行代理店を決めているのか意味不明。
※	不参加でした。
※	育児に限らず、介護もある。これからの日本、出産可能な女性が少なくなる中、むしろ介護をする人が増える。いずれにしても、オンデマンド視聴の充実をお願いします。
※	公式旅行代理店による宿泊予約受付は、ほぼ使ったことがない。少し離れた場所なら楽天でもっと安いホテルを探せる。
※	不参加だったため回答できない
※	子供が小さくとも、現地で交流できるオプションは必要。託児室の料金を知らないが、親の責任として少なくとも一部は利用者が支払うのは妥当だと考えている。一方で、学生やポスドクなど非常勤職員へは割引も考慮できると良いと思う。そのため学会費値上げなら支払う。
※	子育て世代の研究者も多数いるのだから、学会の会場には子供が沢山いるのが当然という雰囲気を醸成してほしい。海外の学会に参加すると、子供連れて参加して科学の世界の雰囲気を子供に学ばせている光景をよく見る。自分の子供がまだ小さかった頃、分生に連れて参加したことがあったが、託児所に預けて自分の発表をする以外は実質何もできなかった。子供の旅費・宿泊費は私費だし、多くの苦難を乗り越えて子供連れて学会に参加する意味は皆無だと感じた。子育て世代の研究者が我慢も遠慮も一切なしで学会に参加できるという雰囲気を分子生物学会が作れたら、日本の全学会の模範になって、日本の科学が変わると思う。
※	オンラインや録画を充実させてほしい。遠方だと特にいけない。託児の案内開始をわかりやすくしてほしい。登録時に「託児の募集が始まったらメール案内を希望」など選べると良い。
※	公式旅行代理店は不要(web普及前の体制を引きずっているだけ)。高いし。
※	子供が小さい内は託児室に預けると、実際には泣きすぎて水が取れないなどの呼び出しがあるため、預けること自体にハードルの高さを感じています。そのため、いざという時にオンラインで参加できる体制を取っていただけると安心して参加できると思います。

質問19. 本年会の開催形式(単独開催・他学会共催形式による連携※)について

※本年会において生物物理学会の会員は分子生物学会会員と同じ資格・参加費で参加可能としました。また生物物理学会の方にも年会組織委員の就任を依頼し、年会の企画・運営に携わっていただきました。一部のシンポジウムは生物物理関連分野のテーマで行われています。(その他)

回答者 番号	その他記述
※	生化学会も共催した方がいいと思います。
※	特に生物物理学会らしさを感じる企画はなかった。共催があっても良いが何か共催のメリットを見せる看板企画が必要。
※	あまり生物物理が含まれている感じがしなかった。
※	生物物理学会や他学会との共催を支持する一方、内容的に、「今年はさすが、生物物理学会との共催だな」と感じる事がなかったなという感想です。
※	日本生化学会との合同がよい
※	内容に広がりがでてよかったです。生化学会以外の様々な学会とも共催して欲しいです。
※	良かったが、互いの学会が上手く混ざり合うようなワークショップが望ましい。テーマ設定や演者の選定で、互いを受け付けないような企画もいくつかあったように思う
※	共催だということが解らなかった
※	生物物理学会員の関わる発表や企画に参加していないか違いがわかっていないのでわからない
※	大きくなりすぎです。
※	不参加でした。
※	良さが全くわからなかった。
※	特にそのことを意識せずに学会期間中を過ごせたので、まあどちらでも。。。。
※	日本生物物理学会との共催の良い効果があったとは思えなかった。

質問20. 今後の年会の開催形式についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	いつも横浜か神戸での開催なので、別の都市でも行ってほしいです。必ずしも大きな会場である必要はないのかなと思います
※	ハイブリッド形式は便利で良いが、開催費用が高騰し、正会員の参加費が高騰するので、正会員の参加費10,000円程度で運用できる内容を検討してくださいと助かります。
※	最新成果の発表を促すため、オンデマンド配信はやめた方がよい。
※	ハイブリッド開催は運営にも負担があると思う。第12会場は縦長な部屋であるが、映写している画像が小さく(スクリーンは大きかったが)、後ろの席では音が小さいなど行き届いてないところがあったのもそのせいだと思う。オンサイトを基本でいいのではないかと。
※	オンサイトがよいと思います。
※	オンデマンドは是非併用した方がよいと思います。
※	口演が複数会場でも同時進行する場合、圧倒的にオンラインが聴講しやすい。ポスターはマンツーマンに近い形式である以上、表情を見ながら説明を変更している。オンラインは形式的なものとして扱う程度でよい。
※	どれが適切かは判断出来ないが、現地参加した場合はオンラインコンテンツを見る事はなかった。どの様なかたちで参加したかで回答の傾向は変わるだろう。
※	回答が多すぎ。答えるのが面倒
※	オンサイトで予算削減を希望。
※	感染予防にお金を使わなくて良いと思う
※	規模の大きさを考えると、オンラインがあると情報漏洩についての危惧がどうしても残るので、unpublishedなところを話しに
※	口頭発表はオンサイト&オンライン、ポスター発表はオンサイトだと嬉しい。
※	オンラインのみで参加する場合(現地に開催期間中、一度も入らない場合)、参加費を安くするのもいいと思う。ただし、ポスター発表をオンライン化することは予算がかかり、その利点を潰してしまうことを考えると、オンラインのみの参加者には、ポスター発表は聴講できないデメリットと参加費割安を天秤にかけて判断を委ねれば良いと思う。
※	オンサイトメインでも良いが、家庭環境等のワークライフバランスを取るには、オンラインでの配信もあると非常に助かる。コロナ禍で明らかになったと感じているが、オンサイトは人との交流には良いが、他の方の研究を知り自分の研究を発表・推進することが学会参加の目的ならばオンラインだけで十分である。
※	オンサイト開催を基本とするが、聞き逃した講演を視聴できるように、後日一定期間オンデマンド配信してほしい。
※	海外演者はオンライン参加が多くなっているの、シンポジウムやワークショップはハイブリッドで、またポスターはオンサイトのみでよいと思います。
※	地方都市もオンサイト会場の選択肢に入れられるよう、上記1、2の視点から開催方法を検討してほしい。
※	ハイブリッド開催は、様々な理由で現地参加の難しい研究者の参加を促すため、今後も継続してほしい。海外からの演者、子育て世代、旅費の制約、地方在住、分生がメインの学会ではない研究者など、潜在的な学会参加者が気軽に参加できるオンラインは、意義が大きい。
※	聞きたいシンポ・WSが同時に複数ある場合が多いという現状の問題を緩和できるのならありがたい。
※	ハイブリッド開催で、ポスターと企業展示はオンサイト、シンポジウムなどの口頭発表はオンサイト+オンライン+オンデマンドの併用。
※	オンラインは便利だが、対面に比べるともの足りない。ハイブリッドにすることで経費が上がり、運営が複雑になるのであれば、オンサイトだけでよいのでは。
※	完全オンサイトの時期は会場に入れなかったり、別会場への移動が間に合わないなどで聞くことができず諦める演題が結構あったのと、未発表内容の発表にはオンサイト限定の方がいいのでハイブリッド開催の継続を希望します。
※	オンラインでも同時に視聴できる今回の取り組みがよかったです。ただ、個人的にやはり現地で聞くほうが集中力が高いかなと思ったので、現地開催は基本にしてほしいと思いました。少なくともポスターセッションは絶対、現地開催が良いと思いました。オンライン視聴でもいいと感じる時には現地のホテルやカフェなどで開けたので、実感として会場の人数制限にも自然と少しはつながったのではないかと思います。また、20時くらいの遅めのセッションについては、ホテルでゆっくり聞けたのでとても助かりました。
※	オンサイト学会は地方にいる会員からすると旅費や移動時間、体力を無駄に浪費することになるので折角オンラインでできるようにしたのだから悪しき風習(オンサイト学会)をやめるべき。
※	今回コロナ後に初めてオンサイトで学会に参加したが、やはりオンラインでは得られないものが会場にいただけで得られたと思う。学会はオンサイトが基本であると改めて感じた。
※	時期による。休暇中や週末なら現地開催で問題ないが、学期中の平日開催だと参加が難しいため、オンライン中継やタイムシフト視聴があるとありがたい。
※	オンライン参加は残してください!
※	同じ時間帯のセッションが聞けないのでオンデマンド配信があればありがたい。
※	今年一部日程が他の学会とかぶったが、そちらもハイブリッド開催で会ったため、分子生物学会の会場にしながら、他の発表も聞けるのはやはりメリットが大きい。また、移動時間の節約にもなるかと。
※	ただのオンライン化ではなく、oViceなどの仮想化ツールを積極的に取り入れて、オンラインではあるが参加者間の交流は対面と同様にできるようにしてもらいたい。ポスター発表もオンラインではなく、仮想空間内で開催してもらいたい。
※	今回指定演者に出産直後の先生がいました。従来この時期ではオンサイトで参加発表は無理でしたがオンラインで参加していただけました。これはオンラインの良いところで、女性もライフイベントに影響を受けず参加することを示してもらいました。とても良かったです。
※	原則オンサイトとした方がよいと思います。
※	ハイブリッド開催が希望。ただ、オンサイトの人数が減ると企業からのサポートが減って、参加費の値上げにつながるの難しい。今の位のバランスでもいいのでは。
※	発表の録画・撮影は禁止されているが、オンラインでは悪意で様々な方法で録画・撮影可能なため、発表内容の秘匿性確保に不安を感じる。
※	分子生物学会の選挙へ介入して〇〇さんを送り込み、大会をコピーすることは明らかに躍起になっている生化学会は残念なことに真のオワコン学会に成り下がった。悪質な生化学会役員会に代わりお詫び申し上げる。
※	学生が多い研究室で旅費のことを考えると、地方都市巡回はあまり良い手とは思えません。(より遠くになってしまうリスクが増える。関東と関西の隔年開催くらいが現実的かと。)ワークライフバランスを考えると、オンサイトのみは嬉しくないのですが、オンライン(リアルタイム)のためのコストを考えると、オンサイト+オンデマンド配信あたりが落とし所かと思えます。

質問20. 今後の年会の開催形式についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	オンラインの日と現地開催(ただしオンラインの視聴可能)の日を、分ける方式を支持します。
※	同時進行のプログラムが多いため、学会後も一定期間視聴できるようになっていれば非常に有難い。
※	ポスター発表をオンサイト限定にするのに賛成。
※	逆に、オンラインの参加費を高くするのが良いと思います。旅費もかからないし、オンラインの経費はそちらで賄うべきで
※	ハイブリッド化で地方での開催が可能になって、会期を4日間にできるのであれば大賛成。近年の日程は詰め込みすぎていて、あまりにも時間に余裕がない。朝のシンポジウムから参加して、夜のフォーラムまで出た場合、長時間労働過ぎて現在の労働基準法をまじめに守る場合は問題になる。十分な議論を行う会として充実させるためにも、時間の余裕は必要で

質問21. 年会をオンライン開催またはハイブリッド開催(オンサイト+オンライン)とする場合、「未発表データを前に議論したいが、発表資料を不正に複製・撮影等されることへの懸念がある」との声が聞かれます。講演の事後配信や一般演題のポスターデータ掲示についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	特になし
※	未発表データを用いた発表はしない
※	どんな策を講じても、表に出したモノは盗用される可能性は残るので、どうしても困るモノは出さないようにするしかない。
※	事後配信可の場合に未発表データをたくさん盛り込むことには抵抗が出るだろう。講演の性質にもよるが分野外の聴衆にとっては最新データでなくても楽しめると思う。
※	学会が海外からの参加者を増やしたいことと、未発表データの公開を求めることは相反すると感じる。差別をするわけではないが、海外からの参加者がいると未発表データを公開しそれが配信・ダウンロードされることには強い抵抗がある。
※	いかなる形であれ、あるいは守秘義務契約を結んだとしても、表に出したデータや情報が完全に秘匿されていると考える方がおかしいと思っている。
※	ためらいなく発表前のデータを議論できる環境を整えることが重要と思います。発表前のデータの方が基本的に盛り上がり
※	上記対策でダウンロード防止のみが触れられていますが、配信・ダウンロード拒否派の人への対策としては、osレベルでの画面キャプチャー防止を施さないと適切ではありません。一部の電子書籍アプリでは、画面キャプチャーできないよう対策されているものもありますので技術的には可能かと思えます。
※	オンラインは、どうやっても情報が漏れるので、発表者としては未発表データを出さない方が賢明。
※	発表データと未発表データのタイムラグはあんまりないので、気にしない。すべて公開OKでやっています。
※	当研では、基本的に出願済みのデータ、あるいは出願しないデータしか発表していないので、あまり気にしていません。
※	事後配信は無しで良いと思いました。そうしないと未発表データなどどうしても出しにくい場合もあると思います。
※	オンラインでもオンサイトでも人前に出す以上はリスクは同等と考えています。気にする人は発表を控えるべき。
※	未だに講演スライドやポスターをスマホやデジカメで撮っている人がいることに驚く。もっと厳しく見回り、見つけたら即退出してもらおう位の強めの対応でも良いと思う。
※	未発表データの発表は自己責任とする。
※	自分の発表の事後配信はイヤだが、他人の発表の事後配信は聞きたい(ワガママですみませんが、ホンネです)
※	オンライン開催であったとしても、基本的にはオンサイト開催に準ずるべきで、公開は原則、当日のみにするべきです。オンラインで、開催日以外の閲覧を求める場合は、課金制にしても良いかもしれません。
※	オンラインがある限り、シンポジウム・ワークショップの演者になった場合、発表演題の事後配信を許可しないことは勿論の事、未発表データを用いた発表はしない。オンラインがない場合、発表演題の事後配信は許可したくないが、未発表データを用いた発表を検討したい。
※	「オンライン可」「未発表データがあるのでオンライン不可」などの選択ができると良いと思います。
※	新規性に関しては、特許等の関係のセミナーも行ったらどうでしょうか。
※	試行錯誤するしかない
※	そもそも、学会は科学技術を社会で広く共有し、発展させるためにある。その原則が第一にあるべきだと思います。発表者が未発表データについての懸念もある程度理解はできますが、オンラインになったときの多くの研究者がうける恩恵のほうはずっと大きいと思います。
※	家庭や校務の都合で現地参加できない会員にとってリアルタイムのオンライン配信はメリットがあるとは思いますが、費用や手間をかけてまで事後配信を行う必要はない。
※	ポスターはオンサイトのみとして、未発表データについてはポスターで議論しましょう、という流れが良いのではないかと思います。

質問22. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	要旨に演題番号がついていて、更にタイムテーブルに飛べる方が良かった。
※	分生初参加でしたが、非常に有意義で楽しめました。1か所対象も手法も多岐にわたる発表を見聞きできること、そして思わぬ出会いも含め多くの人と話せたこと、企業ブースが非常に充実していたことなど、とても良い学会だったと思います。現地参加でしたが、複数会場のセッションを行き来して聞きたい時に、オンラインでも聞けたのが非常に便利でした。オーガナイザーの皆様ありがとうございました。来年も楽しみにしております。
※	confitの検索と要旨とのリンクがもっと使いやすくなれば良いと思う。お気に入り登録して一覧にできるのは良かった。
※	Wifi情報を会場ごとに探すのが面倒だった。
※	私は妊娠中のため現地に行くことができませんでしたが、オンラインで演題を聞くことができとても助かりました。いろいろな事情で現地に行けないけど学会には参加したいという方も多いと思うので、ハイブリッド方式は続けてほしいと思います。ポスター発表はオンサイトのほうが圧倒的に良いと思うのですが、web上からpdf版のポスターを見れるようにしてもらえたら、オンライン参加の方もアプリ？上で質問を投げたりすることができるのになーと思いました。結構遅い時間まで発表が行われていて、結構しんどかったです。せめて19時位に終わってもらえるとありがたいです。遠方からの参加の場合、最終日は少し早めに終わってもらえるとその日に帰宅できると思います。
※	ポスター会場内にセッション会場を設けるなど、なるべく会場がまとまるようにしているのだろうと思うのでそこはよかった。空き時間に、企業セミナーなどやっている印象もあり、それもよかった。ただ、宣伝不足感があったので、運営側も努力してもらうちょっと人呼び込めると良いのかなと思う。
※	日程が過密なので、後日オンライン視聴で見逃した公演も含めてゆっくり見直したい
※	オンラインでの参加は、今後も続けていただけるとありがたいです。現地への移動時間や移動・宿泊費用を抑えられますし、仕事との両立もできます。また、現地で広い会場を歩き回って疲れてしまうこともありません。どうぞよろしく願いいた
※	フォーラムの時間が遅く、宿泊していないと参加できない人が多いと思います。昼間の企業セミナーなどを削ってもフォーラムは早い時間帯にしてほしいです。
※	いろいろと新たな試みがあって楽しめました。
※	今回は無駄なイベント・演出が多すぎた(お金の使い方が不透明)。発表・議論する場を十分に与えるだけでいいと思う。セッションとセッションの合間は、もう少し時間が欲しい。他学会との共催はどんどんやるべきだと思う。
※	オンラインのハイブリッドはぜひ続けて欲しいです。地方在住、子育て中でも参加の敷居が下がります。また、難聴のため補聴器使用でも会場での音声が聞き取りにくいので、オンライン併用でイヤホンで聴けるのは有難いです。
※	オンラインでも聴きやすく、ハイブリッドで開催していただけたのはすごくよかったです。今後もオンサイトメインでオンラインでも口頭発表は試聴できるような仕組みをしていただけたら嬉しいですね。
※	オンサイト基本での対面議論が重要と感じます。対面で会員同士が交流できることのメリットを非常に感じました。他の学会との融合も重要な要素であると考えています。
※	職場が医療系の大学で、県外への出張を禁止しているので、オンライン参加いたしました。たとえコロナ禍が過ぎ去っても、オンライン参加という手段を残していただくことを強く希望いたします。理由は、忙しい職場のため、3泊4日という出張は難しく、かといって1泊2日の出張では体力的にしんどいからです。このたびは、オンラインで1日半ほど参加できました。自分の知識のアップデートなど、たいへん勉強になりました。
※	ワークショップの数を増やして、小さい規模に分ける方向性に大賛成。人的交流の場にしたいので、My scheduleに登録すると一言コメントを入れるくらいの気軽さで、メッセージボードの利用を促すのも良いかも。
※	今後はオンサイトが主体に戻っていくものともわれるが、オンライン参加は一定割合で残るだろう。
※	・生物物理学会と共催した意味を何も感じなかった。普通の分子生物学会だった。生化学会と共催するときの方が単独開催との差を感じる。・シンポジウムとワークショップのプレゼンの質には、講演者間で大きな気合いの差を感じた。スライドを何枚も省略する人がいたが、明らかに準備していないということである。・頑張っているポスターが沢山あるのに、ポスター会場の聴衆が少ない。企業ブースやソファの配置などを工夫して、ポスター会場に人が停留するよう工夫した方が良い。
※	今年の年会は、いくつも新しいアイデアを採用されていたこと。そうしたアイデアがどれもよく練られたものだったこと。とても楽しめる年会でした。運営組織に感謝します。
※	恵ノリが過ぎる。
※	来場者や参加者をentertainしようという姿勢はすばらしいが、分子生物学会ではやや行き過ぎの面もあると感じている。真摯に議論すること、流行りもの・突然登場して真偽がまだ判らないものなどに疑義をかけること、大御所の意見や論文であつても間違っている・面白くないのなら、それを表明できること、なども、科学では非常に重要だと思うが、分子生物学会の人達はそうは思っていないのかなと感じた。「言ったもの勝ち」「ウケればよい(またはウケなければいけない)」という文化に偏ってきているとしたら問題だと思う。個人崇拜なんでもってのほかである。その意味で、meet my hero/heroineは余計な
※	旧帝大以外の参加者が減っている。ビッグサイエンスに寄り添いすぎ。お金のある人にとっては良い学会。
※	会期が他の学会と重なり、参加できなかった。オンデマンド配信のみ視聴できる参加枠(日本分子生物学会会員限定、参加費がやや割安)があれば、日程的・地理的・金銭的な制約のため現地参加できない会員や、授業・実習・試験・就職活動のため平日に参加できない学部学生/大学院生、海外在住の会員も取り込めると思う。
※	テマングは必要ありませんでした。しかも世の助教を不快にさせる内容だったことに疑念はありません。
※	ワークショップで総合討論やパネルディスカッションをしてほしいという運営からの要望に従ってその旨行いましたが、参加者からの評判はよくありませんでした。総合討論などで時間を使うなら、演者の発表時間を伸ばしてほしいという意見が大多数でした。次回以降の運営に反映してほしいです。
※	色々と新しい取り組みを試みたことは評価できるが、ゴチャゴチャしていて、余分なことが多かったと感じた。学会に慣れていれば、例年通りにしてもらうのが参加しやすい。
※	最終日のワークショップの際、ポスター会場(出店企業のアングルなど)の後片付けの音がうるさく、発表そのものに支障をきたしていたように思います。ポスターとワークショップの場所を分ける、同じ会場にするなら、ワークショップが終わるまで後片付けはしない、などの配慮があればよかったと思いました。
※	ポスター・企業ブース会場でのワークショップは非常に良くなかったので二度とやめていただきたい。オンラインシステムもやめるのが良いと思われる。

質問22. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	この規模の学会は希少なので、続けていけば良いと思います。
※	今年の年会、大いに楽しみました。育児や介護でオンサイトで参加ができない研究者もキャリアを継続できるよう、分子生物学会くらい大きな学会ではオンライン部分を残してもらえると嬉しいです。
※	ポスター発表のガチャの企画はよいとおもったが、画面が回るのが気持ち悪く、画面を継続して見続けると具合が悪くなつアプリが使いにくいので、プログラム冊子が欲しい。せっかく良いフォーラムをやっているのに、時間が遅いせいで聞く人間に限られている。もったいない。最終日の夕方WSが始まってすぐから企業ブースのぼらしが始まり、トークが聞こえない。また、HPにあったロックの音楽やピアノ演奏をWSなどしている時間にエンドレスに流す。正直、うるさい講演の邪魔。講演を聴きに行っているのに、聞こえないような状態にしている、議論を盛り上げろって意味がわからない。加えて、予定演者決定後に議論を活発にするための手ほどきを大会長からうけた。演者は役者だとか、オーガナイザーは監督だ、さくらを投入してもいいから議論を盛り上げろと言われた。やりたいことは理解できるが、そうしたいならもっと早くに会員全員にアナウンスすべきだし、そちらの希望だけ押しつけて、オーガナイザーからの要望(アンケートのひな形作成など)に対するリターンは何もなし。ふざけているのかいつもなのかかわからないが、こんな学会なら今後参加しなくて良いと思った。
※	幕張メッセは交通の便が良いとは言えず、近隣の参加者としては通うのが結構大変であった。初日はポスター会場の電灯が発表時間しか点かず、時間外に観ることが難しかった。ポスター会場が広いことで混雑しすぎず良かった。
※	年回に参加していないため、ほとんどの選択肢に回答を入れられませんでした。ですが、ここ数年の傾向と大きく変わっていないと思われたので、それを念頭に意見を書かせていただきました。まず、学会は広い意味でのコミュニケーションの場ですので、オンライン開催に反対です。また、分子生物学会自体の色を出してもらうためにも、共催は好ましいと思っております。そして、シンポジウムやワークショップは明らかに多いので、かなり拡散している印象を持っております(そして、おそらく企画者の過剰な自己アピールにもつながっているように見え、良い印象を持ちません)。ですので、多少参加人数が減少したとしても、規模を縮小した方が、長い目で見ると、Qualityの高い学会大会になると、私は思います。
※	このアンケートがわかりにくい。一つの設問で、複数聞いています。
※	運営、ご苦労様でした。さまざまな学会に参加していますが、分子生物学会は大規模な運営の中、毎回新しい取り組みを導入されており、敬意を表します。概ね良かったと思います。唯一残念だったことは、ポスター会場の電灯がコアタイムの2時間以外消され、手前の企業ブースのネオンがきらびやかだったことです。コアタイム前後でもポスターを前に議論したいことがありました。スポンサーのため致し方ないとは言え、本来はサイエンスとして、優先順位が逆のように思います。
※	現状では生化学会(や生物物理学会)と合同で開催されることを望みます。
※	今回の会場はタブレットやスマートフォンの充電を出来る場所がなく、不便を感じた。今後紙媒体を廃止し要旨やプログラムを電子配信する傾向にあるなら、機器の充電スポットは必要と思う。学会自体は良くプログラムされており、大変有意義な時間を過ごせました。
※	訳の分からないテーマソングなど「大人の悪ふざけ」は今後一切やめて欲しいです。学会にかかるお金の多くは税金や企業の研究費から来ている。ふざけた茶番をやるイベントに対して、どのように国民に説明できるだろうか。文化祭ではないということ認識して欲しい。研究の面白さや魅力を引き出すイベントに注力するべきだと思う。またこのような「悪ふざけ」を内々に許容してしまうような組織体制も非常に問題だと思う。この学会もオールドボーイズネットワークから脱却してないのだなと印象づける最悪のイベントだった。
※	昔みたいに4日間の開催にして他のセッション等に移動する時間に余裕を持てる会期が欲しい
※	大きな部屋に企業展示や口演の場が一緒になっていてお祭り感もあり非常に楽しめました。参加した学生も次回も発表したいとモチベーションを高めていて喜ばしかったです。参加者が多すぎるために難しいのは分かりますが、オーラルでの一般演題があれば良いなと思いました。
※	今回は自分の体調のため、オンサイト参加ができませんでした。しかし、ハイブリッド開催のため、大学で授業を行いながらも、それ以外の時間で興味のある講演を視聴できました。大変ありがたいです。しかし、オンサイトでしか参加できない魅力的な企画がたくさんあったので、それらに参加できず残念でした。
※	字幕表示はいらない
※	学術とは関係の無いもの(酒やイベント、グッズ)が多い気がする。もう少し研究の本質に集中しても良いのではないかと感じた。もしお金をかけているなら、それに関わらない場合は少し不公平感がある。
※	分生らしさとは、もはやシニア研究者によるテーマソングくらいしかないことが明らかになった年会的に思います。過去の延長線上で単なるノスタルジーで続けるのではなく、もう一度生化学会等との合併を検討したほうが日本の研究者の時間とエフォートを有効利用できる気がしてしまいました。
※	Twitterで盛り上がりを見送っていたので、参加したかったと思った。ただ、分野がNGSや網羅的な解析が多くなっており、個々の分子の挙動やそこにアプローチする研究は少なかったのでは?。実際に参加したら楽しめたかどうかはわからない。オンサイトで色々は人と話をするのは大切だと思う。
※	ASCBとEMBOと共催して、若手の外国人研究者を分子生物学会に招待する企画を作り、分子生物学会をより国際的な学会に発展すると良いのではないかと思います。
※	演題のキーワード検索でサイエンスピッチ発表をマイスケジュールに登録した際、各演題ごとに何番のピッチ会場で発表があるのか把握できなかったのが改善してほしい。ブラウザのタブ表示が使えるので、アプリよりは使いやすかった。
※	工夫が散りばめられていて、楽しい学会でした。ハイブリット形式は、予算が高つくさうだと今回見ながら思いました。質問項目にありませんでしたが、ポスター会場のカーテンの下に隠された展示も良かったです。
※	日本の科学の競争力が落ちている現在、学会の国際化、ダイバーシティ推進は必須である。今年の年会は全体的に雰囲気よかったが、内輪の雰囲気は否めない。女性率は改善が見られるものの世界水準ではなく、英語の能力も全体的に低い。若手の世代で、勢いのある研究者は増えつつあるので、例えば若手PIの層をターゲットとして、ASCBやEMBO、HFSPとの連携を進めるなどの国際戦略が必要に思う。
※	オンサイトで参加しましたが、セッションを回る際どこでなんの発表があるかはやはり冊子がある方が探しやすいと感じました。幕張メッセにWifiはありましたが、会場ではほぼ通じなかったため、スマホを使って演題の場所を確認するのに少々トラブルがありました。スマホでプログラムの確認、お気に入り登録できるのは良かったです。操作性に不安を感じる時があったので、その点がもう少し改善できれば良いと感じました。

質問22. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	久々のオンサイトでの大きな学会は議論が充実し、広い分野からの研究者との交流の場になり、非常に有意義でした。会場に行けない時間でもオンライン視聴できるなど、柔軟な体制で参加できたのも良かったです。Zoomのセッションは一部を除いてストレスなく非常にスムーズでした。ぜひ今後もこのような年会を開催していただきたいと希望しております。一方で、英語字幕やサイエンスピッチはなくし、その分ポスター、ワークショップ、シンポジウムを充実させると良いと思いました。英語字幕は間違いも多く、かえって集中力を欠きました。サイエンスピッチは短く質問する時間がなく、ポスターに代えられると思いました。ポスター会場は広大で端から端まで動くのが大変なため、カテゴリ分けに工夫の余地があると感じました(会場にもカテゴリかわかる看板があると更に動きやすい)。Timetable&Map冊子は無くても良いですが、代わりに同じものを会場内に多めに設置してあると良いと思います(迷いやすく、手元で毎回確認するのは大変)。マップにはコーヒーが買える場所や、デスクワークできる場所の掲示もあるとより効率よく動けると感じました。
※	参加章が大き過ぎる。例年通りのサイズでよい。
※	今回は、ほぼ30年ぶりの幕張開催ということもあり、運営側の例年とは違う意気込みを感じました。多くの方と知り合い、意見交換でき、参加した満足度の高い大会でした。運営の方々努力に感謝したいと思います。
※	久々にオンサイトで参加できて、いろんな人と会えて楽しかったです運営ありがとうございました
※	幕張メッセで開催したのは良かったと思う。ポスター会場、企業ブース、サイエンスピッチ会場、飲食スペース、フォトスポットが同じ空間にあるのが良かった。また幕張でやってほしい。出張申請看板はおもしろいので毎年の恒例にしてほしい。
※	朝のセッション会場で打ち合わせ中にバンドの練習の音量でまったく声が聞こえず会場スタッフにその旨を申し出たが、9時直前までつき支障を感じたので配慮してほしい
※	シンポジウムなどは、オンライン視聴することで、画面も良く見えて、会場移動の手間も省けてとても便利である。しかし、発表がタイムテーブルから大きく遅れるセッションが多く、聞きたい発表の予定がずれてしまうのが大変困った。
※	とにかくワークショップの会場がひどい一言に尽きる。もっと効率的な予算の使い方をしてほしい。幕張メッセに、会議室が足りないとは思えないので、採択したならその分だけの会議室をきちんと確保し、ある程度静寂が守られた環境下で実施してほしい。最後の演者の発表と質疑応答が生演奏で全然聞こえなかった。いろいろ新しい取り組みをやってみる試みは評価するが、肝心のアカデミックな場面がおざりでは困る。生演奏も地酒の販売もテーマソングも、余裕がある範囲でやってほしい。そのせいで会場を抑える費用が足りなかった、では本末転倒。
※	20数年前に初めて学会に参加して、今回まで変わらないことは、オールセッションで話を聞き、ポスター発表で議論し、企業のブースを回ること。学会はシンプルにこれだけで十分に魅力的。これが残されていれば、手が込んだ工夫は不要と思います。20年前と比べて変わって良かったことは、重たいプログラムのデジタル化。よくなった(悪くなった)ことは、新しい分野を学ぼうと入ったオールセッションが英語で行われていて(出席者の99%が日本人なのに)、理解できずに過ごす時間が増えたこと。よろしくお祈りします。
※	実際に参加をして、改めて研究者が一堂に会する意義を実感できる、これまでに無い素晴らしい内容の年会でした。組織委員会の皆様に感謝申し上げます。
※	楽しく有意義な年会でした。ありがとうございました。
※	まず、運営に関わった委員のみなさまに厚くお礼申しあげたい。学会を開催するには多大なエネルギーが必要だと思う。まずシンポジウムとワークショップについて、分子生物学会のように多分野が共存する大規模学会は非常に貴重である一方、他分野の話に興味あっても英語発表だと理解が難しくとても残念だと感じる。このような複合的な学会では日本語発表を増やして他分野研究者にも理解しやすくすべきだと思う。海外のお客さんへの配慮ならば、スライドを全て英語にすれば十分だと思う。ポスター発表については上記の通りとても残念だった。
※	今回とても素晴らしかったので、次回以降が大変だと思います。サイエンスピッチは、優秀者の中から、さらに選考するプロセスが、最終日にあってもよかったです。EMBO presentation award該当者がどのようなプレゼンをするのか、口演もできる権限をかけたawardにしていたらと、より活性化すると思いました。
※	率直に言って今回の年会は最高でした。やはりオンサイトでの分生年会はいいなと思いました。どの企画も楽しく、ポスターではまさに激論コロッセオと呼ぶにふさわしい盛り上がり方だったと思います。まだコロナ禍がおさまらないなかオンラインだけにするという選択肢もあったかと思いますが、この様な発表形式を決断していただいた関係者の皆様には心から御礼申し上げます。次年度以降も非常に期待しております。どうか宜しくお祈りします。
※	ハイブリッド開催を充実させて地方都市での開催などマンネリ化対策を進めることを提案します
※	プレナリーレクチャーがオンラインだったのは残念でした。事前にそのように決まっていたのであれば、オンラインだということがわかるようにプログラム上などで事前に周知してほしかったです。また、幕張メッセ特有のことかとは思いますが、国際展示場の口頭発表会場がパネルで仕切られているだけだったので、周囲の音が気になってしまうことが頻繁にありました。国際会議場の会場でも、隣の部屋のベルの音がそれなりによく聞こえて紛らわしいことがありました(会場1と会場2)。
※	学会が一部の研究者だけの発表会になっている気がする。参加費が高いのに会場にエアコンが効いていなかったり、訳のわからない企画があったり、理解に苦しむことが多いと感じました。
※	幕張は不便です
※	分子生物学会と生化学会の合同開催に以前参加しましたが、関連性が高く、良かったと思います。また合同開催があると良いと思っています。自分は標識材料を研究しておりますので、ユーザーの先生が多くなる分子生物学会と生化学会の合同開催は、技術ニーズが得られるので、有り難いです。
※	会場として「幕張メッセ」は交通アクセスに不便を感じた。
※	今回は残念ながら現地参加はできませんでしたが、ハイブリッド開催だったためにオンラインで参加することができました。それでもやはりポスター前でいろんな方と議論できるのは楽しいので来年度は是非現地参加したいと考えています。開催方式、使用言語などさまざま見直すべき部分、運営の大変さはあるとは思いますが、柔軟性も大切だと思います。身に関係なく見知らぬ人と議論ができる分子生物学会の自由な雰囲気が好きなので。研究室で使用していなかったり、欲しいと探している機器の譲渡会なんて無理ですかね？研究費の有効活用になると思うのですが、、、組織委員会の皆様 お疲れ様でした。ありがとうございました。
※	幕張メッセの会場が広すぎて、簡単に興味のあるセッション会場に移れませんでした。そういった意味でボタン一つで会場を移動できるオンライン視聴はとても助かりました。

質問22. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	・閉会式の後もワークショップがあるのは、その時間帯に講演した者としては正直なところ感じが良いものではなかった。・会議場だけでなくポスター会場内にも講演会場があるのは、講演会場間の格差を感じて、これもまた感じが悪かった。自分は閉会式を行った場所の物理的に裏側にある講演会場(第17会場)で講演することになっていたため少し早めに会場に行ったのだが、待っている間、閉会式の演奏がうるさくて本音を言うと迷惑だと感じた。
※	「逆襲の助教」などといった、思いもよらなかった感性的なテーマソングで、生の演奏もあり、時代の進歩を感じた。このような斬新な企画を今後も続けてもらいたい。
※	ワークショップ等の口頭発表に関しては、参加者で一つのテーマに関してじっくりと議論を交わせるとよい。そのためには発表数を絞ったほうが良いかもしれない。
※	ワークショップの会場が分散していると移動に時間がかかり発表が聞けないことがあった。場所が許せば一つの建物に集中したほうが良いと思う。ただ、今回ハイブリッドだったので、聞きたいところだけを外場外でも聞けるのは非常に良かった。
※	学会のオンライン化を強く望みます。
※	午前中と夕方以降に、聞きたいセッションが集中しており、オンサイトでは移動だけで時間を要するので聴講できないことがあった。後日オンデマンド配信を併用してもらえたら助かると思う。全体に若い参加者や座長が目についたことはよいことだったと思う。
※	分子生物学会はカバー範囲が広いので、異分野のコミュニティーとも言えると思います。そのような考え方やベースの知識が全く異なる集団がうまく交流できるような場としての存在意義もあると思います。最先端の知識を披露するだけでなく、例えばある特定分野の歴史やこれまでの総括的なものをわかりやすく異分野の方にオーバービューするシンポジウムとかも有意義かもしれません。
※	今回のような広い会場を使用することで、横浜・神戸・福岡以外の場所でも開催できるようになれば良いと思った。ラボメンバーでできるだけ多くで参加したいので、年会費の値上げは必要最小限にとどめて欲しい。
※	規模のダウンサイジングは必要だと思います。
※	演題の分類がわからずすぎるし偏っている。分類を頼りにポスターを回っても、みたい演題がまとまっておらず歩き回るのが疲れた。
※	これだけ会員が多いと、現地orオンライン、開催時期、平日or週末など、誰にとっても都合が良い開催形態はないように思います。毎度ころころ変わるくらいの方が、いつも都合が悪いという人が少なくて良いように思います。
※	学会の本文に専念し、無駄な経費を削減して参加費を下げるべき。一部不明朗な出費が疑われるし、運営側の慢心が感じられる。
※	分子生物学会はもともと生化学会から新進気鋭の若手が独立する形で成立したと理解している。ところが今や分子生物学会の理事や年会に関わる先生方はシニアな大御所ばかり。はっきりいってそういう古いメンバーで改革なんてできるはずがない。学位をとってそれほど日がたっていないポスドク・助教クラスの先生を優先的にオーガナイザーや組織委員会のメンバーに組み入れたり、理事に30代・40代前半くらいの若手PI枠を設けたり、思い切ったことが必要だと思う。
※	私は雑多な音が聞こえる中で特定の声に集中するのが非常に苦手なため、今回の企業ブースやポスター会場と発表会場が一緒になっている形式では、やや聞き取りに集中しにくかったです。ただ様々な事情により、それも致し方ないことは理解はできます。
※	今回非常に多くの新しいアイデアが盛り込まれており、Twitterでバズった参加証明の看板なども含め多くはいい方面に効果を発揮していて大変素晴らしいと思った。運営の方々おつかれ様でした。活気があり、大変素晴らしい年会でした。一方、ライブキャプションやメインホールのうるささ・夜の暗さなど、うまくいかなかったアイデアや何かを立てるために何かを犠牲にした面もあったと思うので、うまくいった部分は次年度に引き継いでほしいと思いますし、うまくいかなかった点は修復
※	複数のWSなどを見たい場合、講演会場同士が遠いのが少ししんどかった。オンラインに切り替えても視聴するスペースが限られており、結局その時間ホテルから出なかった。サイエンスピッチは面白い発表とそうでないものの差が大きいという印象。回を重ねることで良くなるか？会場のサイズが適切でないものは毎回あると思います。先に参加者投票とかで規模を把握してみるとか？夜の創発とかの発表はタイトルがなかったので内容が把握しにくかった。午後の発表スケ
※	今年の大きいネームカードははっきり言って邪魔だった。するなら材質は折れや曲がりに強いものの方が良いのでは。大きいだけで、名前や所属の字の大きさは従来のものであまり変わらなかったし。
※	オンラインで口頭発表を聴講できるのは大変便利です。コロナが収束しても、口頭発表はオンライン配信をつづけてほしいです(オンデマンドはなくなっても仕方ないですが)。
※	展示場での張りぼて会場+パイプ椅子での口頭発表は「虐げられる研究者」というネタとしてはおもしろかった。ただ、学生が必死に発表練習してきた憧れの学会発表の場であることを考えると、笑い事にしていいのかと思った。今後のアカデミア志望者が減少しないことを願います。
※	会場でお土産を買えるのは便利だった。
※	全発表演題のタイトル・発表者集は、紙冊子で欲しい。
※	研究不正については放置プレーですか？
※	・学会参加費が高すぎる。・プログラム冊子を作って欲しい。・変なテーマソングは要らない。・やはりオンサイトが良いと感じ
※	大会場でワークショップの部屋がいくつかありましたが、同時に音楽も流れていて、それはさすがにやめてほしかったです。それでなくても、大きな会場の雑音がいっつもはいつてきてなかなか集中しにくい環境でした。会場が大きすぎて、ワークショップを渡り歩くことができませんでした。あと、アンケートの項目が長すぎます。
※	リアル形式の学会はやはり良いと思いました。分子生物学に関連する異分野の研究内容ももっと発表できる雰囲気があると良いと思いました。特に、環境分野の研究がもっとあればと思います。
※	年々規模が大きくなりなかなか聞きたいものすべてが聞けないのがとても残念です。未発表データの漏洩など心配はありますがぜひオンサイトでも参加した人も後日見られるなどオンデマンド配信があるととても嬉しいです。

質問22. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でもちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	・ワークショップの企画・選定が終わった後にこういうことをしてくださいと後から言うのをやめてほしい。・オーガナイザーへのリスペクトが全然感じられない学会であった。・3日目のワークショップ開催中に企業ブースの片づけや解体作業が始まりほとんど工事現場でおこなっているようであった。タイムテーブル・場所はよく考えて欲しい。・生演奏やバンドの曲がうるさかった。初めから最後まで主催者の自己満足ばかりの演出でしかもダサイ！！本当に学会はよく考えるべき。議論をアクティブにするならその環境を整えるのが学会や大会長始め主催者の役割で自分らが目立ってどうするのという自己満足の演出であったと思う。熱い議論を妨げたのは自分たちであることを運営側は猛省すべきである。唯一良かったのはオンサイトとオンラインの両方があったこと。参加者の幅が増えて良かった。
※	オンライン形式での発表は、コロナ時などのやむを得ない場合の対応と考え、むやみに拡大するべきではないと思います。可能な限り、コロナ前の、対面を原則にした運営を希望します。
※	昔の分子生物学会は雑多というかカオスとかか年會に謎のパワーがあったけれど、今は自分の研究にすぐに役立つということをみんなが優先してきているので、学会自体がゆっくり衰退していくのは仕方ないかとも思います。分生以外の学会でも同様な問題を抱えています。
※	発表中に、間違った読み取り(翻訳)が出るような文字システムは廃止した方がよい。まだ実験段階にある。
※	深川さんから運営の中枢におられた方々に敬意を表したい。
※	私は90歳を越えますが、まだ年に原著論文を3報書いています。ご存じのように今では日本の被引用数上位10%の論文数は世界12位に転落し韓国、スペイン以下になりました。私達の全盛期には米国に次ぐ順位で、田舎の私の生化学教室にも何人ものノーベル賞受賞者が訪れ国際誌に共著の論文もあり、国際生化学分子生物学会では特別講演に何度も出ました。学会も米国のFEBSの様に生化学も分子生物も生理学も一緒に開催しないと学会数ばかり増えて、発展に重要な境界領域への視野がありません。是非再考して下さい。
※	ハイブリッド、とても良かったのでこれからも改善を続けて欲しい。きつとどんどん良くなっていくはず。一方で、オンサイトでの発表の重要性(特に学生にとって)も再認識した。オンラインはあくまでも補助的な位置付けで、主戦場はやはりオンサイトがベストかと思います。大変素晴らしい大会でした。本当に皆様のご尽力には平伏します。お疲れ様でした。
※	1日のみ、しかも数時間だけの参加でしたが、今回さまざまな挑戦的な企画があつてプラスに働いていると思いました。周囲からも良い評価の意見を聞きこすれ、ネガティブな意見は全く聞きませんでした。これは、分子生物学会年會の危機感から生じてきたもの、と理解しました。数年前に近藤滋先生が「分子生物学会をぶっ壊せ」という意気込みで年會を開催された(勝手に)理解していますが、その流れを良い形で昇華していただいた、と感謝しています。バランスは難しいと思いますが、この取り組みが続けられれば嬉しいです。正直な話、メインのテーマが合わなくて分子生物学会年會からは足が遠のいていたのですが、戻ってこようと思いました。組織委員会の皆さまには本当に感謝しています。ありがとうございます。一部は医学系学会同様に、年配の先生のお話というワークショップも有ったと思うが、もっと学生、特に学部学生には参加を促し、活躍の場となしてほしい。この10年ほど癌学会等で英語必須、発表時も英語のセッションに当たると英語の練習で一月ほど時間が取られるなど、学会の体面ばかり気にして、参加者の意欲を失わせているところもある。もちろん英語での発表も重要では有るが、ただでさえ次世代の研究者の数が少なく、中央以外の大学や研究所では学生の確保が難しくなっているのに、そこに「英語オンリーの発表をしなければならぬ」というノルマを課したら、研究自体から逃げる学生も増えるだろう。また、優秀な抄録には参加費、宿泊費無料などの報奨を設けてもよいかと思う。
※	英語はあってもいいけど、強制しないで欲しい。
※	今回の会場の特性で、ポスター会場が暗かったのが気になった。また、同じ空間で音楽演奏をしていたので、隣のWSが聞きにくかった。
※	違う学問領域の勉強をしたいとき、英語での発表が分りにくかったり、英語での討論が深まっていないと感じることがあります。オンデマンド配信を充実して、AIを使って、日本語の発表を英訳、あるいは英語発表を和訳にすることは可能でしょうか？技術が不完全であっても、無いよりはるかに良い、くらい感覚で始められたら、嬉しいです。
※	大変お疲れさまでした。女性プレゼンターの30%以上というのは今後も継続すべきだと思います。また、EMBOやASCBとのコネクションも非常に重要だと感じました。今回はランチタイムのセッションへの参加者は少なかったですが、これから増えていくはずですよ。
※	夏頃になってからセッションのあり方についてオーガナイザーを集めてとやかく言われたのは筋違いと感じました。議論を活発にする必要性は認めつつも、聴衆の側に多様なニーズがある中でオーガナイザーがセッションの方向づけをしすぎるのは、かなり違和感があります。ただし、オーガナイザーに質問時間をなるべく長めにとってもらうのは良い案と感じます。分生のセッションは往々にして発表時間を優先しすぎて、質問時間が短すぎるセッションが多く、質問が多いと途中で打ち切られるので、わざわざマイクまで行くのが億劫になりがちです。質問時間を心持ち長めに設定し、それを聴衆に伝えるだけで議論は活発になり得ます。そして、質問がないときはオーガナイザーが沈黙を埋めるべきとも思います。セッションオーガナイザーに対して、その程度の指示出しはあっても違和感さはさほどないと思います。
※	今回のように他の学会とでも、それぞれの年會長同士が旧知の中であり、建設的な合同年會を実現されるのなら、素晴らしい。従って、素晴らしい合同年會が実現できるかどうかは、それぞれの年會長個人間の信頼関係に依存しているもので、合同相手の学会を固定することはしてはならない。また、今回ほどの創意工夫に満ちた合同年會はそうそうできるものではないので、今後の分子生物学会長に他学会との合同年會を強いるようなことがあってはならない。繰り返しになるが、合同年會は年會長個人間の信頼関係などに基づく、自然発生的な企画でしか成功しない。第45回日本分子生物学会年會 組織委員会の皆様、本当にご苦労様でした。
※	ワークショップの趣旨に立ち返った見直しは大変よかったです。主催する立場にある方々には今後も啓蒙を続けていって
※	Graphical Abstractは素晴らしいかと思えます。投稿する段階ではみなさん苦労があったかと思うのですが、ブラウズできる抄録としては非常に有効でした。
※	もちろん私見ですが、全発表件数を減らすほうがいいのかかわてから思っていて、発表者としては一人一演題にするべきだと思いますし、共著としての発表も一人最高3件くらいまでに絞るほうが良い(多くの学生に発表させたいなら、論文でのequal contributionのような制度を作るのもいい)ように思います。

質問22. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	「激論コロッセオ」と銘打った意欲的な年会でしたが、演者が壇上において会場からマイクを通じて質問するという形態が変えられない以上、ことさら議論に火を注ぐのはかなり難しいように感じました。討論を活発化するために工夫しているセッションも見られましたが、多くは従来通りのやりとりに終始していたのも残念なところですが、しかしながら、どの会場でも多少質疑応答の数は増えていたように感じたので、それなりの成果はあったように思います。大きな学会ですので運営するのは本当に大変だと思いますが、何かしら伝えようと思わない限りは何も変わりませんので、これからどうか努力を続けて頂ければと思います。どうもありがとうございました。
※	今の人口比ですと、単純計算で20年後は現在の約半分強の人口で学会を運営することになるはずですが、それに加えて大学院生の減少、「生物学」への社会的興味の減少を鑑みると、おそらく学会縮小のペースはそれをはるかに上回ると思います。そのことを最近よく憂いていたのですが、今回の分生で強烈に感じたことがあります。それは、学生のサイエンスに対する興味は決して下がっていないということです。昨今の、「ラボのコアタイム」「自分時間を大切に」という風潮は、決して現状のすべてを語っているわけではないと思います。あまり短期的な意見に惑わされず、分生は分生らしく、どんと構えて、自分たちがサイエンスを作っているという気概で、これまで通りされたら良いかと思っています。
※	・今回は会場のレイアウトに工夫がなされていたことが素晴らしかった。ポスター、口頭発表、サイエンスピッチ、業者展示、休憩場所が同じフロアに共存し、気軽に行き来できたことはほとんどの参加者にとってメリットがあったと感じる。・今後も、分子生物学会ならではの、今回のような自由な雰囲気を持続した年会運営を期待する。・オーガナイザーの先生方、たいへんお疲れさまでした。素晴らしい年会でした。
※	同時進行のシンポジウムやワークショップが多いなか、どのようにしたら、なるべく多くの講演を聞くことができるかという視点をもう少し大事にして、学会の在り方を構築していただきたいです。
※	サイエンスピッチが大盛況で、今後も続けてほしい。この規模の学会で賞をもらえることは、学生の意欲の向上につながる。ポスター会場に講演場を設けたのはとてもよい。ポスターからすんなりと聴衆を誘導できていたと思う。今回の学会を通して分子生物学会がチャレンジ精神旺盛で改革を取り入れていく体制があることがわかり非常に好感が持てました。深川先生をはじめみなさま本当ににお疲れ様でした。
※	サイエンスピッチは継続してほしいが、より若手の研究者の卵、研究者への道を進もうか思案中の学生のエンカレッジとなる企画になると良いと思いました。正会員の参加費が高い。オンラインサイトの検索システムがダメで検索する気が起きなくなった。結果、見落とした発表もいくつかあった。
※	やはり、今回感じたのはオンサイトでの交流時に交わされる情報交換の大切さです。現代の若者もそう感じている部分もあると思います。オンラインを推奨したい方々の気持ちも分かりますが、本当に学会参加したいのなら、オンサイトでも参加することでしょう。良い機会なので、精査されてみてはいかがでしょうか。
※	忙しい先生方にもポスター発表に足を運び、たとえ知らないラボの学生でも話しかけてもらえるありがたい。EMBOやASCBとコラボ企画があったが、あの先生方をポスター会場で見かけることはできなかった(見ていないだけでしたらすみません)。前で話している姿を見せるだけでなく、同じポスターを見ながら話せるチャンスがあったら若手には刺激になると思う。留学も身近に感じるのではなだろうか。お客様には重労働で申し訳ないが。
※	オンサイトでの学会は、演者を廊下で捕まえて議論の続きを行ったり、ばったり会った知り合いとの立ち話で良いアイデアが出たりといったことが起こるので、オンラインでこれと同等かそれ以上の「学会に参加するメリット」が作れるのであれば完全オンラインが便利で良いと思う。
※	朝夕のセッションはオンラインにして、宿泊しなくても参加、発表できるようにしてほしい。同時に興味のある演題がかぶっていることが多いので、広い会場を走り回るのも防げる
※	最終日のワークショップ(国際展示場)の環境は非常に良くなかった。この時間帯のワークショップはポスターボードの撤去など業者が入っている中で実施されており、周囲の作業音がとても大きくて演者や質問者の声が聞き取りづらく工事現場でセッションをしているような感覚だった。設備撤去の時間や予算の関係など様々な要因があることは理解できますが、このあたりは今後ぜひ改善していただきたい。
※	あの量のイベントを3日間でこなすのは不可能。日頃会えない人・新たに学会での発表w聞いて話して見たいと思った人とのdiscussionができない。もっとシンプルにした方がよい。Powerpoint 使用を指定するとかあり得ない。学問の自由の侵害。発表中に足音を立てて歩き回る会場係がいましたが、あらかじめ業者への厳重な注意あるいはそういった事例をフィードバックするシステムが必要。
※	育児中なのでなるべく17~18時までには主要な企画は終わるように会期日数を増やすなどの工夫をしてほしかったです。(細かいことですが)参加証が大きすぎてかけたまま移動するのに少し邪魔でした。
※	米国での学会参加者が高い確率で新型コロナに感染した報告がなされている(参照URL: https://www.nature.com/articles/d41586-022-04469-8)。元々、新型コロナの感染力はオミクロン株以降著しく高くなっている為、多数の人が1箇所に集まれば高い確率で感染してしまうことは予想された。新型コロナ後遺症についても人類はまだ十分に理解できていないことから、来年度以降の学会においては、「感染対策対応チーム」の巡回だけでなく事前(例えば学会期間中の宴会ルールの策定)・事後(新型コロナ感染有無についてのアンケート等)に十分な対策と精査を要す
※	ワークショップの会場がポスター発表会場に特設のような環境で設置されていました。最終日の最後の時間帯であったため、セッション中に撤去作業が開始されてしまい、発表中の演者の方にはオーガナイザーとして非常に申し訳なかったです。ポスター会場に設置されること自体はアクセスの良さ等、そこまで悪くなかったと思いますが、年会の一番最後だけは考慮していただけることを希望いたします。
※	私は分生非会員でWS演者として招待されて参加しました。分生年会の、専門的になりすぎない学術交流プラットフォームとしての価値は非常に高いと感じ、また参加したいと思いました。今後とも分生年会の盛上りに期待しています！！